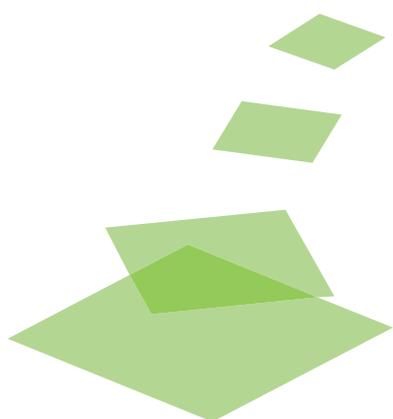


令和2年度 静岡県済生会事業報告書



済生会 基本原則

社会福祉法人^{恩賜財団}済生会は、済生勅語にみられる「施薬救療」の精神を承けて済生の実を挙げ、社会福祉の増進を図ることを目的として設立された。

以来、全国にわたり医療機関及びその他の社会福祉施設等を設置して定款に記された事業を行っている。

令和2年度 静岡県済生会 経営方針

済生会の理念と役割の実践

支部理事会を意思決定機関とし、支部長に幅広い権限を一元化した業務執行体制による機動的かつ効率的な組織運営体制のメリットを最大限生かし、変化する経済・社会状況や経営環境に的確に対応しつつ、安定した経営基盤を確立・強化するとともに、本支部の「施薬救療」の具現化と社会的使命をより一層発揮するため、「第2期中期事業計画」に基づき、その着実な推進に努める。

1 済生会ブランドの構築のために

「施薬救療」の精神に基づき無料低額診療事業の一層の推進と生活困窮者への支援事業の充実並びに医療・福祉サービスの積極的な推進を図る。国連のSDGsの理念とも合致するこの事業への職員の理解を深め、幅広くかつ積極的に実行することにより済生会のブランドの確立を目指す。

2 わが国最大の医療・福祉団体としての活動と役割

生活に密着した心温まる医療・福祉サービスを提供する。

また、切れ目のない医療・福祉サービスを提供するために必要な医療・福祉の密接な連携に先導的な役割を果たしていく。特に、今後の我が国の医療・福祉分野において最重要課題とされる地域包括ケアの形成に向けて、本支部の有する医療・福祉の資源を効果的に活用し、連携を図る取組みを進める。

3 経営基盤の強化

「施薬救療」の精神の具現化等本支部の社会的使命を果たしていくためには健全な経営を確保していくことが不可欠である。現下の厳しい経営環境の中で、支部を挙げて経営基盤の強化に取り組み、本支部事業の持続的発展に努めていく。

4 行政・関係団体・地域住民等外部との連携・協力

地域における医療・福祉の需要に応えるため、行政や社会福祉協議会等の他団体、さらには地域住民との連携・協力などの仕組みを形成し、地域ネットワークのキーステーションとしての役割を担う。

5 良質な人材の確保や、「施薬救療」の精神を实践する「済生会人」の育成に努め、サービスの向上と組織体制の強化を図る。

6 ガバナンスの確立とコンプライアンスの徹底を図るとともに、危機管理体制の万全な備えに一層努める。

目 次

○ 令和2年度事業報告	頁
1 静岡県済生会支部事務局	1
2 静岡県済生会監査室	14
3 静岡済生会総合病院	16
4 静岡済生会療育センター令和	19
5 静岡医療福祉センター成人部	23
6 静岡医療福祉センターライトホーム	25
7 静岡市発達障害者支援センター	27
8 伊豆医療福祉センター	29
9 静岡県川奈臨海学園	32
10 静岡市中心身障害児福祉センターいこいの家	36
11 小 鹿 苑	39
12 小鹿なでしこ苑	43
13 静岡市桜の園	45
14 静岡市中心身障害者ケアセンター	49
15 ワーク春日	53
16 静岡済生会看護専門学校	55
17 静岡済生会訪問看護ステーションおしか	57

※各記載事業の記号は次のとおりです。

①・・・指定管理による事業

②・・・自治体からの委託事業

1 静岡県済生会支部事務局

基本理念

済生会創立の「施薬救療」の理念の下、静岡県済生会の各施設の連携を図り、その総力を挙げて質の高い医療・福祉サービスを提供し、安心・安全な地域医療・福祉の実現に寄与する。

令和2年度目標及び結果

目標1 安心・安全な地域医療・福祉の増進

- (1) 病院及び各施設と連携した生活困窮者支援事業の積極的推進 目標数:1,644名
- (2) 静岡県済生会地域包括ケア推進方策の検討
 - ・ 済生会地域包括ケア連携士を中心とし、実現するための具体的施策の構築
 - ・ 施設間の連携及び社会資源との連携について推進

結果 (1) ア 令和2年度計画に対しての実績 1,722名 (2,155名) 内訳：ホームレス8名(54名)、高齢者及び障害者1,331名(1,405名)、刑余者1名(30名)、外国人210名(242名)、母子児童27名(141名)、その他145名(283名)

(詳細は、8ページから13ページ参照)

- (2) 済生会地域包括ケア連携士(12名)を中心に施設間の連携等について協議、検討を進めた。病院と施設間の意思疎通、共通理解を図ることを目的とした「施設連携懇話会」を12月にリモート開催した。

目標2 各施設の円滑かつ安定的な運営支援

- (1) 施設整備や事業推進上の課題解決等に係る支援
 - ・ 川奈臨海学園の建替計画、静岡医療福祉センターライトホーム事業の在り方検討、指定管理事業であるいこいの家及び静岡市桜の園の在り方の検討
- (2) 職員研修や人事評価制度等の人材育成の充実・強化
 - ・ 体系的な職員研修の構築、階層・職種毎の研修の開催
 - ・ 人事評価制度導入に向けた試行と制度の改善(令和3年度からの運用開始を目標)
- (3) 適切な会計経理処理に対する支援の強化
 - ・ 公認会計士による指導・会計経理担当職員研修会の開催

結果 (1) 川奈臨海学園・・・令和2年8月工事着工、令和3年5月開所予定
ライトホーム・・・県視覚障害者協会等と事業継続について協議を行った。

いこいの家・・・引き続き指定管理者の指定を受けた。

静岡市桜の園・・・静岡市担当課と課題の確認と今後の対応策の協議を行った(令和3年度継続)。

- (2) 階層別研修は、リモートにより開催した。(詳細は3ページ記載)

人事評価は2回の試行を経て3年度より運用とする。

- (3) 会計経理担当者研修は、新型コロナウイルスの影響で開催中止とした。

目標3 医療・福祉の人材確保

- ・ 実習指導者等との連携を図り、魅力ある法人の情報を発信し、外国人も含めた優秀な人材確保に努める。

結果 新型コロナウイルスの影響により実習受け入れが困難な状況から、担当者打ち合わせ会は中止したが、各施設 SNS 等を活用し情報発信に努めた。

2年度より介護福祉専門校に通学する2名(インドネシア・ベトナム)に奨学金

を貸与した。

目標 4 静岡県済生会事業の積極的広報による市・県民との信頼関係の構築

- (1) 病院及び各施設の情報発信の促進
- (2) 済生会地域包括ケア連携士を中心とした施設間連携の取組の情報発信
目標：新聞等マスコミへの露出

- 結果** (1) 静岡県広報協会へ加入し、広報担当職員の研修への参加、ステーションおしかは広報誌診断を受診した。
- (2) 掲示板を利用した PR 活動「静岡県済生会 15 事業所の紹介パネル」の作成

(1) 支部事務局運営事業

社会福祉法人^{恩賜財団}静岡県済生会の法人管理並びに運営事務について、次のとおり事業を行った。

ア 支部理事会の開催・・・7回開催（7回）

	開催日	場所
第1回	令和2年 5月21日	静岡医療福祉センター
第2回	令和2年 7月16日	グランディエール ブケトーカイ
第3回	令和2年 7月16日	〃
第4回	令和2年 9月25日	〃
第5回	令和2年12月 7日	静岡済生会総合病院
第6回	令和3年 1月29日	グランディエール ブケトーカイ
第7回	令和3年 3月17日	〃

イ 諸会議の開催

会議名称	回
・支部事務局会議	21 (21)
・支部執行会議	5 (6)

医療施設及び社会福祉施設等の有機的な連携を図るための連絡調整

会議名称	回
・静岡県済生会地域包括ケア未来構想委員会 ※隔月開催に変更	5 (11)
・施設連携懇話会	1 (1)
・静岡済生会療育センター令和・伊豆医療福祉センター連携交流会議 ※令和元年度は、静岡県済生会福祉医療施設長懇話会として開催	1 (1)

ウ 済生会本部等との連絡調整

会議名称	回
・支部長会議（本部）（2年度はWeb会議）	1 (2)
・済生会関東ブロック会議（神奈川県支部）	中止
・全国済生会支部事務責任者会議（茨城県支部）	中止 (1)

エ 第三者委員会の運営に係る業務・・・2回(2回)

	開催日	場所
第1回	令和2年9月11日	静岡医療福祉センター
第2回	令和3年3月26日	〃

オ 職員研修事業の実施

担当部署	開催日	内容
企画課 第1回	令和2年10月29日	「業務新人職員研修」 ・ 済生会について ・ 無料低額診療について 9施設17名(8施設19名)
企画課 第2回	令和2年11月26日	「相談業務職員研修」 ・ 「相談支援事業務に関するアンケート」集計報告 ・ 「静岡県済生会相談支援事業担当者一覧」作成報告 ・ 意見交換 10施設11名(9施設12名)
企画課 第3回	令和3年2月22日	「業務主査・主任職員研修」 ・ 人事評価制度について ・ 意見交換 7施設9名(9施設14名)

その他

- ・ 財務課主催研修会は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止とした。
- ・ 実習担当職員打ち合わせ会は新型コロナウイルス感染症の影響で実習生の受け入れが難しく中止とした。

カ 機関誌定期発行による情報発信 「しぶだより第23号」の発行

キ 法人の管理運営に係る業務(会計事務所等による会計監査及び監事監査)対象・・・全施設

	開催日	対象
会計事務所および監査人による会計監査	令和2年4月20日から23日 令和3年3月16日から19日 4月7日	全施設
監事監査	令和2年5月11日	全施設

・ 行政機関(静岡県、静岡市)による指導監査への立会い

(2) 生活困窮者支援事業

生活困窮者総合支援事業(なでしこプラン)を病院、各施設とともに推進、展開した。(※各施設別詳細については、8ページ~13ページ参照)

(3) 静岡県済生会職員共済制度事業

職員及び家族の福利厚生の上をを図るため、各種給付及び貸付事業を実施した。実績は、次のとおりであった。

事業名	令和2年度		令和元年度	
	人数(名)	決算額(円)	人数(名)	決算額(円)
退職共済事業給付金	24	92,382,599	14	57,438,896
医療共済給付金	5,543	37,925,990	5,705	36,730,620
職員共済制度資金貸付事業	0	0	0	0

(4) 施設等支援事業

ア 静岡県川奈臨海学園

施設と連携しながら円滑な施設整備を推進した。

(新園舎開所式：令和3年5月17日)

イ 組織運営上の課題を抱えた施設の将来構想検討に係る支援

静岡医療福祉センターライトホームは、事業の継続について協議を行った。

また、静岡市桜の園については、施設の建て替えも含め、課題の確認と今後の対応策について協議を行った。

ウ 医療・福祉連携促進の支援

- ・施設連携懇話会
- ・新型コロナウイルス感染症への対応
- ・済生会地域包括連携士を中心に「入退院マニュアル」の策定

	開催日		令和2年度支部理事会議案一覧	承認/否
第1回	令和2年 5月21日	1	社会福祉法人 ^{恩賜 財団} 済生会支部静岡県済生会支部理事の委嘱について	承認
		2	令和元年度社会福祉法人 ^{恩賜 財団} 済生会支部静岡県済生会事業報告について	承認
		3	令和元年度社会福祉法人 ^{恩賜 財団} 済生会支部静岡県済生会決算報告について	承認
		4	社会福祉法人 ^{恩賜 財団} 済生会支部静岡県済生会就業規則の一部改正について	承認
		5	社会福祉法人 ^{恩賜 財団} 済生会支部静岡県済生会有期契約職員就業規則の一部改正について	承認
		6	社会福祉法人 ^{恩賜 財団} 済生会支部静岡県済生会無期転換職員就業規則の一部改正について	承認
		7	社会福祉法人 ^{恩賜 財団} 済生会支部静岡県済生会給与規程の一部改正について	承認
		8	静岡済生会総合病院処務規則の一部改正について	承認
		9	静岡済生会看護専門学校学則の一部改正について	承認
		ア	令和2年度支部役員人事について	報告
		イ	済生会フェア開催中止について	報告
第2回	令和2年 7月16日	1	社会福祉法人 ^{恩賜 財団} 済生会支部静岡県済生会支部理事の委嘱について	承認
第3回	令和2年 7月16日	1	独立行政法人福祉医療機構福祉貸付事業による借入の承認について	承認
		2	済生会本部経営基盤強化資金(新型コロナウイルス感染症対応)借入の承認について	承認
		3	静岡済生会総合病院長期設備整備資金借入の承認について	承認
		4	令和2年度静岡県済生会施設整備計画の追加について	承認
		5	社会福祉法人 ^{恩賜 財団} 済生会支部静岡県済生会規則の一部改正について	承認
		6	令和2年度静岡県済生会事業計画の一部改訂について	承認
		7	社会福祉法人 ^{恩賜 財団} 済生会支部静岡県済生会組織規程の一部改正について	承認
		8	静岡県川奈臨海学園処務規則の一部改正について	承認
		9	静岡県川奈臨海学園子育て短期支援事業運営規程の制定について	承認
		10	社会福祉法人 ^{恩賜 財団} 済生会支部静岡県済生会給与規程の一部改正について	承認
ア	静岡県済生会支部役員人事について	報告		

		イ	新型コロナウイルス感染拡大に伴う経営への影響について	報告
		ウ	静岡市指導監査指摘事項に対する是正改善について	報告
		エ	静岡済生会総合病院長期設備整備資金借入結果について	報告
		オ	報道等で見ると静岡県済生会	報告
第4回	令和2年 9月25日	1	独立行政法人福祉医療機構医療貸付事業（新型コロナウイルス感染症に伴う長期運転資金）による長期運営資金借入の承認について	承認
		2	令和2年度静岡県済生会収支予算の補正について	承認
		3	指定管理者の指定に係る申請について	承認
		ア	静岡県済生会支部役員人事について	報告
		イ	（仮称）川奈臨海学園新築等工事（制限付き一般競争入札）入札結果について	報告
		ウ	報道で見ると静岡県済生会について	報告
第5回	令和2年 12月7日	1	令和3年度静岡県済生会施設整備の計画について	承認
第6回	令和3年 1月29日	1	社会福祉法人 ^{恩賜} _{財団} 済生会支部静岡県済生会第2期中期事業計画の見直しについて	承認
		2	静岡済生会総合病院長期設備整備資金借入の承認について	承認
		3	令和3年度社会福祉法人 ^{恩賜} _{財団} 済生会支部静岡県済生会事業計画について	承認
		4	令和3年度社会福祉法人 ^{恩賜} _{財団} 済生会支部静岡県済生会収支予算について	承認
		5	令和3年度社会福祉法人 ^{恩賜} _{財団} 済生会支部静岡県済生会職員定数について	承認
		6	社会福祉法人 ^{恩賜} _{財団} 済生会支部静岡県済生会給与規程の一部改正について	承認
		7	社会福祉法人 ^{恩賜} _{財団} 済生会支部静岡県済生会支部長候補者の選任及び推薦について	承認
		8	社会福祉法人 ^{恩賜} _{財団} 済生会支部静岡県済生会施設長候補者の選任及び推薦について	承認
		ア	施設における新型コロナウイルス院内感染について	報告
		イ	静岡済生会総合病院長期設備整備資金借入結果について	報告
		ウ	社会福祉施設に対する指導監査の実施結果と是正・改善計画について	報告
		エ	指定管理者の候補者に係る審議結果について	報告
		オ	報道で見ると静岡県済生会	報告

第7回	令和3年 3月17日	1	静岡済生会総合病院短期運営資金借入の承認について	承認
		2	社会福祉法人 ^{恩賜 財団} 済生会支部静岡県済生会規則の一部改正について	承認
		3	社会福祉法人 ^{恩賜 財団} 済生会支部静岡県済生会組織規程の一部改正について	承認
		4	社会福祉法人 ^{恩賜 財団} 済生会支部静岡県済生会就業規則の一部改正について	承認
		5	社会福祉法人 ^{恩賜 財団} 済生会支部静岡県済生会給与規程の一部改正について	承認
		6	社会福祉法人 ^{恩賜 財団} 済生会支部静岡県済生会給与規程の手当に関する特別措置規程の制定について	承認
		7	社会福祉法人 ^{恩賜 財団} 済生会支部静岡県済生会各規程・規則等の一部改正について	承認
		8	なでしこ保育園放課後児童クラブ運営規程の一部改正について	承認
		9	静岡県済生会各施設の事業に係る運営規程の一部改正について	承認
		10	社会福祉法人 ^{恩賜 財団} 済生会支部静岡県済生会支部理事の委嘱について	承認
		11	社会福祉法人 ^{恩賜 財団} 済生会支部静岡県済生会施設長等の任免について	承認
		ア	公の施設に係る指定管理者の指定について	報告
		イ	令和2年度社会福祉施設指導監査の実施結果について	報告
ウ	報道で見る静岡県済生会	報告		

第3次なでしこプラン(令和2年度実績)

施設名	事業名	第3次計画					
		R1年度	R2年度				
			変更前	変更後	実績	前年対比	目標対比
静岡済生会総合病院	1 社会福祉施設等健康診断支援事業	1,043	950	950	1,131	88	181
	2 保護観察所等刑余者健診・相談事業	1	10	10	1	0	△ 9
	3 児童・ひとり親家庭等健康診断・相談事業	27	30	30	24	△ 3	△ 6
	4 生活困窮者等健康診断・相談事業	54	100	50	0	△ 54	△ 50
	5 外国人等健康診断・相談事業	102	100	30	4	△ 98	△ 26
	6 生計困難者等に対する日用品及び交通費等の支援事業	5	40	15	7	2	△ 8
	7 聴力障害者手話通訳支援事業(休止)	36	50	0		△ 36	
	8 外国人医療通訳支援事業	140	70	100	206	66	106
	9 長期療養者就労支援事業(がん患者就労支援事業から名称変更)	18	10	15	10	△ 8	△ 5
	10 無料健康相談事業	9	20	100	57	48	△ 43
	11 無料インフルエンザ予防接種	5	0	0	7	2	7
総合病院・成人部・伊豆医療	12 支部内各施設における無料健康相談	48	27	27	13	△ 35	△ 14
総合病院・小鹿苑・なでしこ苑	13 啓蒙・周知活動	544	340	280	76	△ 468	△ 204
小鹿苑	虐待高齢者への緊急受入れ事業	0	1	1	186	186	185
静岡市桜の園	虐待障害者への緊急受入れ事業	0	2	2	0	0	△ 2
	少年院在院者奉仕活動実習受け入れ事業	17	16	16	0	△ 17	△ 16
静岡県川奈臨海学園	保護観察対象者等が行う社会貢献活動の受入れ	12	16	16	0	△ 12	△ 16
	施設退所者の健康診断補助事業	0	2	2	0	0	△ 2
静岡済生会療育センター令和	障害児療育講座	99	160	0	0	△ 99	0
なでしこプラン対象者数合計		2,160	1,944	1,644	1,722	△ 438	78

なでしこプラン事業報告(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

支部分	静岡県済生会	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数 (合計)	8			1,331	1	210	27	145

施設名	静岡済生会総合病院
-----	-----------

事業名	社会福祉施設等健康診断支援事業		内容	健康診断・医療相談 ()							
概要	社会福祉施設(身体障害者関係施設、養護老人ホーム等)と連携し、当該施設又は院内にて、当該施設の利用者を対象に健康診断にかかる費用の免除・減額を行う		支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
			対象者延数			1,131					1,131
実施延日数	69	従事者延数	276	支出総額(円) 3,095,270 (内訳)							
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)		(病院)静岡市救護所、静岡老人ホーム、日本平学園、白寿荘、静岡わらしな学園等								
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)										

事業名	保護観察所等健康診断・相談事業		内容	健康診断・医療相談 ()							
概要	保護観察所、刑務所、更生保護施設、地域生活定着支援センターと連携し、当該施設又は院内にて、刑余者等を対象に健康診断及び、相談を行う。また、要請に応じて、専門職員を派遣し、ケース会議の実施や専門的助言を行う		支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
			対象者延数				1				1
実施延日数	1	従事者延数	1	支出総額(円) (内訳)							
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)		(病院)POPULOハウス								
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)										

事業名	児童・ひとり親家庭等健康診断・相談事業		内容	健康診断・医療相談 ()							
概要	児童・母子福祉施設、静岡県女性相談センター等と連携し、当該施設又は院内にて入所者を対象に、健康診断及び相談を行う。また、要請に応じて、専門職員を派遣し、ケース会議の実施や専門的助言を行う		支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
			対象者延数						24		24
実施延日数	1	従事者延数	4	支出総額(円) 102,408 (内訳)							
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)		(病院)千代田寮								
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)										

事業名	生活困窮者等健康診断・相談事業		内容	健康診断・医療相談 ()							
概要	神奈川県済生会等と共同で横浜市寿町で生活困窮者を対象に、健康診断及び相談を行う。当院は検診車(胸腹部撮影、聴力、視力等搭載)の派遣を行う		支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
			対象者延数								
実施延日数		従事者延数		支出総額(円) (内訳)							
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)										
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)		(病院)コロナ禍で中止								

事業名	外国人等健康診断・相談事業		内容	健康診断・医療相談 ()							
概要	「外国人のための無料健康相談と検診会」実行委員会、市医師会等と連携し、外国人を対象に健康診断及び相談を行う		支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
			対象者延数					4			4
実施延日数	1	従事者延数	2	支出総額(円) (内訳)							
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)		(病院)外国人のための無料健康相談と検診会実行委員会、静岡県弁護士会、浜松医科大学付属病院、県立大学等								
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)		(病院)コロナ禍のため検診は行わず、オンラインでの健康相談のみ実施した。								

事業名	生計困難者等に対する日用品及び交通費等の支援事業		内容	その他 (その他)							
概要	ホームレス、身寄りのない生計困難者等を対象に日用品等の支援を行う。また、救命救急受診者で軽傷の場合等には、病院から目的地までの交通費の支給を行う		支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
			対象者延数	1		6					7
実施延日数	7	従事者延数	7	支出総額(円) 13,690 (内訳) 日用品9,150円、タクシー代4,540円							
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)										
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)										

削除事業	聴力障害者手話通訳支援事業	理由	静岡県障害支援課の手話通訳派遣事業の活用により対応できているため
-------------	---------------	-----------	----------------------------------

事業名	外国人医療通訳支援事業		内容	診療 ()							
概要	静岡県国際交流協会と連携し、日本語が通じない外国人を対象に、診察及び入院時に医療通訳の支援、調整を行う		支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
			対象者延数				206				206
実施延日数	74	従事者延数	77	支出総額(円) 124,451 (内訳) 7カ国、医療通訳者6名							
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)		(病院)静岡県国際交流協会								
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)										

事業名	長期療養者就労支援事業		内容	就労・社会参加支援 ()							
概要	ハローワークと連携し、長期療養者の就労支援及び相談を行う		支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
			対象者延数							10	10
実施延日数	9	従事者延数	9	支出総額(円) (内訳)							
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)		(病院)静岡県公共職業安定所								
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)										

事業名	無料健康相談事業	内容	健康診断・医療相談 ()							
概要	福祉事務所、民生委員、地域包括支援センター、社会福祉協議会等と連携し、生活困窮者、社会的弱者を含む地域住民を対象に健康診断及び相談支援を行う	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数							57	57
実施延日数	2	従事者延数	8	支出総額(円) (内訳)						
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)									
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)	(病院)地域住民向け講演会(2回)								

事業名	無料インフルエンザ予防接種事業	内容	そ の 他 ()							
概要	ホームレスや生活困窮者を支援している施設に入所中の保険証がない方、支払い能力がまだない方などを対象にインフルエンザ予防接種を実施し健康維持を図る	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数	7							7
実施延日数	1	従事者延数	4	支出総額(円) 40,830 (内訳) 4,980円×7名、交通費5,970円						
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)	NPO法人POPOLOハウス								
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)									

施設名	静岡済生会総合病院、静岡医療福祉センター成人部、伊豆医療福祉センター
-----	------------------------------------

事業名	支部内各施設における無料健康相談会事業	内容	健康診断・医療相談 ()							
概要	施設利用者・家族を対象に無料の相談会を施設行事開催時に行う。施設利用者だけでなく幅広く参加を募る	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数			8			3	2	13
実施延日数	13	従事者延数	3	支出総額(円) (内訳)						
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)									
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)	(病院)施設間相談会がコロナ禍で中止(伊豆医療福祉センター)コロナの関係で施設行事が実施できなかったため、施設内の相談事業所職員による無料相談を代替実施。(成人部)例年秋祭り時に無料健康相談等を実施しているが、今年度はコロナウイルス感染症対策のため規模を縮小し、利用者様のみでの実施だったため実績なし。								

施設名	静岡済生会総合病院、特別養護老人ホーム小鹿苑、特別養護老人ホーム小鹿なでしこ苑
-----	---

事業名	啓蒙・周知活動	内容	そ の 他 (研 修)							
概要	施設利用者・家族・職員や地域住民、関係機関を対象になでしこプラン、無料低額診療事業等の済生会の活動について周知する。また、地域住民、関係機関等と連携し、講演会、情報交換会等を開催する	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数							76	76
実施延日数	4	従事者延数	14	支出総額(円) (内訳)						
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)									
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)	(病院)地域ケア従事者研修会1回(41名)、西豊田民生委員協議会1回(28名)、静岡市社会福祉協議会訪問2回(7名)(小鹿苑)新型コロナにより小鹿苑カフェ中止のため未実施。(小鹿なでしこ苑)コロナウイルス感染症流行のため中止とした								

施設名	特別養護老人ホーム小鹿苑
-----	--------------

事業名	虐待高齢者緊急受入れ事業	内容	その他 (その他)							
概要	家族の介護放棄による虐待高齢者等を緊急入所により受け入れる	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数			186					186
実施延日数	186	従事者延数	支出総額(円) (内訳)							
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)									
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)									

施設名	静岡市桜の園、静岡済生会総合病院
-----	------------------

事業名	虐待障害者への緊急受入れ事業	内容	その他 (その他)							
概要	家族等による障害者への虐待の緊急保護において、緊急を要するケースを静岡済生会総合病院と連携し、受け入れていく	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数								
実施延日数		従事者延数	支出総額(円) (内訳)							
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)									
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)		虐待緊急保護受入れの要請がなかったため、未実施							

施設名	静岡市桜の園
-----	--------

事業名	少年院在院者奉仕活動実習受入れ事業	内容	就労・社会参加支援 ()							
概要	短期間で改善・更正する可能性が高いとされた、概ね18歳未満の少年が入院する「駿府学園」と連携し、在院者に対して更正に向けた教育活動を実施する場として、桜の園生活介護事業(通所)を実習先として提供する	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数								
実施延日数		従事者延数	支出総額(円) (内訳)							
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)									
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)		コロナウイルス感染症対策のため令和2年度は未実施							

施設名	静岡県川奈臨海学園
-----	-----------

事業名	保護観察対象者の社会貢献活動受入れ事業	内容	就労・社会参加支援 ()							
概要	静岡保護観察所、観察官と連携し、保護観察対象者等の社会貢献活動を受け入れる	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数								
実施延日数		従事者延数	支出総額(円) (内訳)							
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)									
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)		コロナウイルス感染拡大の影響で受け入れ中止							

事業名	施設退所者の健康診断補助事業		内容	健康診断・医療相談 ()						
概要	生活困窮のため健康診断を受けていない退園生に対するアフターケア及び健康状態のフォローを行う	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数								
実施延日数	従事者延数	支出総額(円) (内訳)								
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)									
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)	対象者がいなかった								

施設名	静岡済生会療育センター令和
------------	---------------

事業名	障害児療育講座(健康医療相談)		内容	健康診断・医療相談 ()						
概要	施設利用者及び家族を対象に無料の相談会を療育セミナー開催時に行う。施設利用者だけでなく、幅広く参加を募る	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数								
実施延日数	従事者延数	支出総額(円) (内訳)								
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)									
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)	コロナの影響で中止								

2 静岡県済生会監査室

コンプライアンスの遂行と説明責任に対する社会的要請が高まる中で、社会福祉法人においても内部統制システムの整備と適切な運用が強く求められており、これまで以上に業務チェック機能を果たす内部監査の重要性が高まっている。

監査室は、引き続き関係法令、通知等に基づき施設の事務処理及び運営等が適正に行われているかどうかを明らかにし、必要な指導及び是正改善等を行うために下記の監査を実施した。

なお、今年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、大半の監査が施設訪問によるものから書面による監査に変更し実施された。

(1) 社会福祉法人^{静岡県}済生会支部静岡県済生会監査規程に則って次の監査を実施

- ①定期監査 時期及び内容を定めて計画的に実施。
- ②決算監査 毎会計年度終了後、決算役員会前に実施。

・定期監査

施設名	監査日
静岡県川奈臨海学園	令和2年 9月 8日
小鹿苑	令和2年10月16日
なでしこ保育園（書面監査）	令和2年11月20日
小鹿なでしこ苑（書面監査）	令和3年 1月20日
静岡市桜の園（書面監査）	令和3年 1月27日
静岡済生会療育センター令和（書面監査）	令和3年 2月 3日
静岡医療福祉センター成人部（書面監査）	令和3年 2月 3日

なお、済生会本部の定めた業務監査チェックリストによる書面調査を全施設・事業所を対象に実施した。

・決算監査

施設名	監査日
監査法人および会計事務所による会計監査	令和2年4月20日、21日、22日、23日
監事監査	令和2年5月11日

(2) 行政機関等による指導監査及び実地指導等への立会

・静岡県・静岡市による指導監査

施設名	監査日	実施機関
静岡県川奈臨海学園	令和2年 9月16日	静岡県
小鹿苑	令和2年10月28日	静岡市
なでしこ保育園	令和2年12月 4日	静岡市
小鹿なでしこ苑（書面監査）	令和3年 1月26日	静岡市
静岡市桜の園（書面監査）	令和3年 2月 4日	静岡市
静岡済生会療育センター令和（書面監査）	令和3年 2月 9日	静岡市
静岡医療福祉センター成人部（書面監査）	令和3年 2月 9日	静岡市

・静岡県による運営改善調査

施設名	監査日	実施機関
静岡県川奈臨海学園	令和2年10月20日	静岡県

・静岡市保健所立ち入り検査

施設名	監査日	実施機関
静岡済生会総合病院（書面検査）	令和2年	静岡市保健所

3 静岡済生会総合病院

基本理念

私達は暖かい思いやりの心で質の良い医療・福祉サービスを実践します。

令和2年度目標及び結果

目標1 安心・安全・高機能な急性期医療の提供

- ・業務の標準化と整理整頓等を進め、顧客サービスの向上に努める。
- ・入院患者を中心とした機能の集約を目指す。

結果 ・新型コロナウイルス感染拡大への対応と急性期医療の両立に努めた。

目標2 患者さん・連携医へのサービス向上

- ・「治す医療」と「支える医療」の充実に努める。
- ・プライバシーの配慮、施設整備の充実、接遇の質の向上を図る。
- ・地域の医療機関との連携を強化した紹介、逆紹介の推進
- ・無料低額診療、生活困窮者支援事業を推進する。
- ・広報活動の充実、強化に努める。ホームページの充実に努める。

結果 ・コロナ禍によりほとんどは維持に留まった。
・新たな取組としては、北館正面玄関天井照明のLED化、保護観察所入所者へのインフルエンザ無料予防接種実施、母親学級(産前教室)の動画配信を実施した。

目標3 優秀な人材の確保

- ・必要な人材の確保と定着を目指し、職員教育の更なる充実に努める。

結果 ・後期研修医3名確保

目標4 働きやすい環境

- ・専門性を生かした業務を行える体制を整備
- ・働き方改革への対応。勤怠管理システムの適正な運用
- ・障がい者雇用率2.5%以上を目指す。
- ・感染対策に一層の強化を図る。

結果 ・メンタル的不調後の復職時に産業医面接を実施
・障がい者を2名採用し、雇用率維持に努めた。
・VRE感染の終息、コロナクラスターの早期収束を図った。

目標5 安定した経営

- ・新入院数及び入院単価向上に努める。

結果 ・新型コロナウイルスの影響を受け大幅に減収したものの、多額の補助金を受けた。

静岡県中部地域の中核病院(昭和23年6月1日開設)として、入院診療を中心とする診療の充実に努めるとともに、救命救急センター、周産期センター、地域災害医療センター、健康管理センターのほか、地域福祉サービス事業等の運営、活動を積極的に進め、地域住民の疾病治療、予防、健康の増進を図った。

地域連携を一層推進するほか、医療の質及びサービスの向上を図り急性期病院として地域に更に貢献できる医療の提供を目指した。

なお、病院経営については、新入院数及び入院単価の向上、医療従事者の確保、支出削減に努め、安定した財源確保を図るとともに、職員の患者、連携医へのサービス向上

等を模索したものの、新型コロナウイルス感染症への対応に迫られ、その他の新たな取組を進めることは困難であった。

(1) 病院運営事業

病床の適正配置と効率運用により、各診療科の安定した診療体制を確保した。救命救急、周産期、脳卒中、循環器等地域のニーズに対応するとともに、7対1看護基準の維持により、安心・安全な看護体制を維持した。受診控えとインフルエンザ等感染症減少により患者数は減少した。

区 分	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
許可病床数	521 床	521 床	521 床
一日平均入院患者数	469 名	411 名	447 名
一日平均外来患者数	998 名	895 名	998 名

(2) 救命救急センター・地域災害医療センター事業等

専門医を配置し、救急医療体制の充実強化を図った。また、災害派遣医療チーム(DMAT)の研修に積極的に参加し、大規模災害発生時の医療チーム緊急派遣に機動的に応じられるよう努めた。

区 分	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
救急患者数	18,000 名	13,253 名	17,939 名
うち入院患者数	4,300 名	3,751 名	3,938 名

(3) 臨床研修事業

臨床研修病院として、研修医を受け入れ、各科指導医による臨床実務を通じて基本的知識、技術の習得などの臨床研修を行い医師としての資質向上に努めた。マッチングではフルマッチを果たした。

区 分	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
受入研修医数	22 名	20 名	20 名

(4) 医師・看護師確保対策事業(院内保育所)

医師・看護師の離職防止と潜在医師・看護師の再就職を促進するために、なでしこ保育園の充実運営に努めた。

区 分	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
事業所内保育事業(共同枠)	90 名/日	69 名/日	84 名/日
〃 (地域枠)	20 名/日	15 名/日	18 名/日
病児保育事業	延べ10 名	延べ0 名	延べ2 名
放課後児童健全育成事業	10 名/日	10 名/日	7 名/日

(5) 地域福祉サービス事業

社会福祉法人が運営する総合病院として、各医療福祉相談活動を通じ、地域住民の疾病治療、予防、健康の増進など社会福祉の向上に努めた。

区 分	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
医療相談	9,500 件	10,286 件	9,347 件
心理相談	5,000 件	4,166 件	4,592 件

(6) 無料低額診療事業

生計困難者を対象に、無料または低額な料金での診療、無料の健康相談、保健教育等を行った。診療活動においては、生活保護患者以外の生計困難者について関係機関と連携の上、対象者への支援に努めた。

区 分	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
実施率	10.0%	8.4%	7.6%
対象者延べ数	46,000 名	34,621 名	32,838 名

(7) 生活困窮者支援事業

無料低額診療対象者のみならず、生活困窮者全般を対象に、無料健康相談や無料または低額な料金での検診等を行った。無料低額診療事業とあわせて、支部内の他施設も含め、地域の関係機関・団体や当事者とともに啓発活動、教育活動の他、地域での福祉的課題について積極的に取組を行った。

主な対象者：

刑余者（刑務所などを出所した者）、DV被害者、ホームレス、単身高齢者、就労困難者への支援など

区 分	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
対象者延べ数	1,460 名	1,516 名	1,510 名

(8) 健康管理センター事業

地域住民及び福祉施設入所者、一般事業所従業者の疾病予防、健康の保持増進に応えるため、人間ドック・各種健康診断を積極的に実施した。

区 分	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
人間ドック	1,900 名	1,633 名	1,765 名
生活習慣病予防健診等	12,700 名	12,221 名	12,105 名

(9) 地域開放事業

将来の生き方や職業の選択について考えている中学生、高校生を対象として医療、保健、福祉への理解を深めるため職場体験、ナーススクールなどを予定していたが、コロナ禍により開催を見合せた。がん広報も停滞し、市民公開講座の開催も見合せた。

区 分	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
市民公開講座	2 回	0 回	2 回
職場体験(中学生参加人数)	40 名	0 名	43 名
高校生ナーススクール	40 名	0 名	41 名

4 静岡済生会療育センター令和

基本理念

私たちはノーマライゼーション実現のため、あたたかな心をもって皆さんを応援いたします。

令和2年度目標及び結果

目標1 経営の安定化

- ・関係機関と連携し、入院（入所）児（者）の確保に努める。
- ・医師、直接処遇職員の確保に努める。

結果 看護師5名（常勤4、非常勤1） 支援員1名（非常勤）
一日平均入院（入所）児（者）数 36.7名

目標2 適切な支援の提供

- ・年令および特性等に応じた支援を計画する。
- ・短期入所による地域支援を行う。

結果 児童、成人それぞれの日中活動（施設内での活動）の計画
短期入所年間利用延人数 0名

目標3 安全な医療・生活の場の提供

- ・継続的に院内感染対策、医療安全対策、虐待防止に取り組む。

結果 新たに、新型コロナウイルス感染症対策実施
虐待防止の研修参加、定期的な委員会の開催

(1) 医療型障害児入所施設事業（一種事業）（定員 60 名）

障害福祉サービス事業（療養介護）（二種事業）（定員 60 名）

入所児（者）及び通院児に対し、リハビリテーション・医療ケア・教育・施設内保育・生活指導等の総合療育及び療養上の支援を行った。従来の肢体不自由児療育に加え、発達障害児の診療を行うなど、利用者からの幅広いニーズに応えた。

入所児（者）数は、保育・教育機関の環境の充実、交通網の発達による在宅志向の高まりなどから減少傾向にある。外来患者数も前年より減少となった。

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
一日平均入院(入所)児(者)数	47名	36.7名	37.0名
一日平均外来患者数	190名	137.5名	173.6名

疾病別人員

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

疾病別	年間実人員	構成比
脳性麻痺	42名	60.9%
進行性筋・神経疾患	3名	4.3%
二分脊椎	4名	5.8%
その他	20名	29.0%
計	69名	100.0%

月別入所者数

	初日在籍者数	延べ人数
2年 4月	38名	1,054名
5月	33名	1,029名
6月	32名	974名
7月	35名	1,087名
8月	33名	1,133名
9月	34名	1,161名
10月	37名	1,183名
11月	36名	1,173名
12月	40名	1,260名
3年 1月	39名	1,118名
2月	36名	1,002名
3月	37名	1,251名
合計	430名	13,425名
月平均	35.8名	1,118.7名
一日平均		36.7名

(2) 障害福祉サービス事業（短期入所）（二種事業）㊦

障害者総合支援法による指定障害福祉サービス事業所として、市町から障害福祉サービス受給者証の交付を受けた利用者と契約し、家庭において、冠婚葬祭、疾病、事故などの理由や、養育者のレスパイトとしての休養や旅行等の理由による短期入所を受けることにより、本人及びその家族の福祉の向上を支援を目的としている。2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で受け入れができなかった。

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
年間利用延人数	400名	0名	564名
一日平均利用人数	1.1名	0名	1.5名

(3) 障害児相談支援事業・特定相談支援事業（二種事業）㊦

ア 静岡市障害者等相談支援事業㊦

静岡市における相談支援事業指定施設として、在宅福祉を担当する職員を配置し、在宅の障害児（者）及び保護者に対して地域生活での具体的な相談、指導、サービスの調整を実施すると共に地域生活に根ざしたボランティアの育成を図った。

イ 障害者等相談支援事業（虐待相談等含む）㊦

- ・相談支援事業として総合的な在宅サービスの調整、援助等

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
地域生活の支援・助言	3,000件	2,965件	3,405件

ウ 障害児等療育支援事業[㊦]

(7) 在宅支援訪問療育等指導事業

- ・派遣職員 医師、PT、OT、ST、心理士等

- ・活動先 障害児保育実施園、重度障害児（者）訓練ホームの巡回、在宅訪問

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
相談等延件数	75件	32件	71件

(イ) 在宅支援外来療育等指導事業

- ・個別相談、療育音楽、グループ保育活動

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
相談指導延件数	280件	60件	169件

(ウ) 施設支援一般指導事業

- ・障害児保育研修、発達フォローアップ教室、自主研修会等の指導等

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
支援回数	13件	0件	11件

エ 指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業

- ・利用者の相談支援及びサービス利用計画書の作成等

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
利用計画書作成件数	130件	135件	135件

(4) 日中一時支援事業（公益事業）[㊦]

在宅福祉を担当する相談支援員を中心に、医療施設機能を提供しながら在宅の障害児（者）の相談支援や施設短期入所の受け入れなど、地域に住む家族の生活への具体的な支援事業を実施した。

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
年間利用延人数	60名	24名	83名
一日平均利用人数	0.2名	0.06名	0.22名

(5) その他の事業（研修室・会議室等運営事業）

医療・社会福祉事業に携わる者の研修等の便宜に供するため、会議室等の管理運営事業を行った。

ア 会議室、ミーティング室利用状況

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
会議等利用人数	5,000名	720名	4,646名

イ 宿泊施設利用状況

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
宿泊施設利用人数	30名	0名	20名

(6) その他の事業（なでしこプラン）

事業名 障害児療育講座（健康医療相談）

施設利用者・家族を対象に無料の相談会を療育セミナー開催時に行う。施設利用者だけでなく幅広く参加を募る。2年度は、新型コロナウイルスの影響で開催中止とした。

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
受講者数	160名	0名	99名

5 静岡医療福祉センター成人部

基本理念

- ・健康で豊かに安心して生活できるよう支援します。

令和2年度目標及び結果

目標1 良質かつ安心・安全なサービスの提供に努める

第三者評価を受審し、客観的な評価のもと、具体的な問題点を把握し、サービスの質の向上に結び付けていく。

- 結果** 受審によって施設の良い点や課題が明確になり、今後の業務運営の向上に向けて職員の意識の共有を図ることができた。
また、業務の振り返り作業を通して、職員の資質向上を図る良い機会となった。

目標2 地域との交流を深める

施設外の催し・大会等積極的に参加し、施設内行事においても外部の団体等招待する。利用者の視野を広げると共に、地域に施設を理解してもらう。

- 結果** 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い様々な行事が中止になったが、わかふじスポーツ大会へ参加したほか、施設内行事に市社協シニアサポーター(65歳以上の世代による地域貢献活動)を受け入れて、芸能を通じた交流を行った。また、学区との地域支え合い体制づくり実行委員会にも参加し、地域との交流を深めた。

目標3 安定した経営を目指す

利用者の開拓に努め、入所者を確保する。(目標)年間 延べ 20,400人

- 結果** 昨年に比べ、延べ利用者数において病気等の入院が増加したため、若干の減少となったが、一日平均在所者数は、例年並みの入所者を確保することができた。

(1) 障害者支援施設(一種事業)(施設入所支援60名、生活介護60名)

障害者総合支援法による障害者支援施設として、日中は「生活介護」、夜間は「施設入所支援」の2事業を行った。

- ・定員 施設入所支援60名(60名)
- ・年間入所者数 2名(6名)
- ・年間退所者数 3名(5名)
- ・年間延在所者数 19,827名(20,055名)
- ・一日平均在所者数 55.7名(54.8名)

疾病別人員

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

病名	年間実人員(名)	構成比(%)
脳卒中	30	51.7
その他の脳原性疾患	9	15.5
脳外傷	2	3.5
その他	17	29.3
計	58	100.0

月別生活介護・入所者数

月	入所 人数	生活介護						施設入所	
		入所		通所		合計		利用 人数	延べ利用数
		利用 人数	延べ利用数	利用 人数	延べ利用数	利用 人数	延べ利用数		
4	57	57	1,205	6	33	63	1,238	57	1,639
5	57	57	1,168	6	41	63	1,209	57	1,722
6	57	56	1,214	5	45	61	1,259	56	1,656
7	57	57	1,273	4	37	61	1,310	57	1,715
8	55	55	1,149	5	46	60	1,195	55	1,695
9	55	55	1,199	5	42	60	1,241	55	1,633
10	55	55	1,186	5	45	60	1,231	55	1,670
11	56	55	1,135	5	46	60	1,181	55	1,621
12	56	56	1,278	5	45	61	1,323	56	1,722
1	56	56	1,147	5	18	61	1,165	56	1,688
2	56	54	1,053	5	43	59	1,096	54	1,471
3	56	54	1,185	5	49	59	1,234	54	1,595
計			14,192		490		14,682		19,827

- ・定員 生活介護 60名 (60名)
- ・開所日数 261日 (260日)
- ・年間延利用者数 14,682名 (14,937名)
- ・一日平均在所者数 56.25名 (57.45名)

(2) 福祉サービス事業（短期入所）（二種事業）（空床）

指定障害福祉サービス事業所として短期入所事業を空きベッドの利用により実施した。

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
年間利用延人数	210名	215名	292名
一日平均利用人数	0.6名	0.6名	0.8名

6 静岡医療福祉センターライトホーム

基本理念

三療免許者に対し、必要な技術及び生活指導を行い、利用者の自立更生をはかる。

令和2年度目標及び結果

目標1 経営の安定化

- ・利用者（施術者）の確保
- ・利用客の確保 目標 3,000人
- ・支出の見直し

結果 施術技術の研修会の実施
利用客 1,327人

目標2 施設の広報活動

- ・済生会フェアへの参加
- ・マッサージ無料奉仕の実施
- ・近隣町内会への広報活動の実施

結果 済生会フェアでのマッサージ無料体験 中止
マッサージ無料奉仕 中止
近隣町内会への広報活動の実施 中止

目標3 施設の将来構想

- ・具体的な方策の検討

結果 関係団体、行政機関と施設の在り方について継続協議

(1) 利用者指導事業（定員20名）

利用者の技術（鍼・灸・マッサージ）及び生活訓練動作の指導を行い、自立生活ができるよう養成に努めた。

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
一日平均通所者数	5名	2.3名	2.1名

疾病別人員（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

疾病分類	通所実人員	構成比
先天性視覚障害者	1名	20.0%
中途視覚障害者	4名	80.0%
計	5名	100.0%

月別在所者数

年月	通所者延人数
2年 4月	31名
5月	22名
6月	41名
7月	41名
8月	26名
9月	30名
10月	32名
11月	23名
12月	24名
3年 1月	12名
2月	20名
3月	26名
合計	328名
月平均	27.3名
一日平均	1.8名

(年間通所日数 174日)

(2) その他

*ライトホーム研修会の実施

開催日 : 令和3年3月8日(月)～19日(金) 13時～16時

目的 : 外部受講者に対する広報活動
視覚障害当事者の技術向上に貢献

内容 : 五十肩の運動制限や痛みに関与する手技を研修する

対象者 : ライトホーム研修生、一般視覚障害当事者で三療免許取得者、
視覚特別支援学校理療科生徒・卒業生

配布資料 : ライトホーム研修メニュー一覧、パンフレット

7 静岡市発達障害者支援センター

基本理念

直接支援である相談、発達、就労支援及び情報提供や啓発研修のより一層の充実を図り、医療、保健、福祉、教育、雇用、親の会など関係機関や団体との連携により専門性を持った支援職員人材育成、ペアレントメンター、地域サポーター養成研修等の支援を行っていく。

令和2年度目標及び結果

目標1 静岡市発達障害者支援センター運営事業について、相談支援、発達支援、就労支援を継続し適切な助言や支援の提案を行う。

結果 相談支援については、ペアレントメンター事業等の業務が拡大し、電話相談における受付回数が減少したが、その分啓発研修等の事業を充実させることができた。また、今年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、来所相談の予定を電話相談やZoomによるWeb相談に振替対応を実施した。

目標2 発達障害者家族支援・支援体制サポート強化事業について、支援体制サポート強化事業において、巡回相談を実施するペアレントメンター・地域サポーター養成講座を実施し、あわせてペアレントメンターの活用を行う。

結果 ペアレントメンター・地域サポーター養成研修では、例年の養成講座6回に加え、養成講座を修了したペアレントメンターが実際に活動を継続している地域はまれであり、引き続き継続できる体制づくりを実施した。

目標3 発達障害について、主催研修会、専門研修会、講師派遣を実施し、普及と啓発活動を行う。

結果 令和2年度は例年の一般研修、専門研修、かかりつけ医等発達障害対応力向上研修会をZoomによるWeb開催をできる体制を整え実施した。Web研修によって、これまでは様々な事情や理由から集合形式の研修には参加しにくかった方が、今年度は多く参加いただけた。

発達障害者支援法に基づく発達障害者に対する相談支援、発達支援、就労支援、関係機関に対する普及啓発及び研修等を行い、また、静岡市在住の自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害等の発達障害がある本人、家族、関係者及び関係機関からの相談支援を行った。

(1) 発達障害者支援センター事業(委)

ア 発達障害児者及び家族に対する相談支援

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
年間延相談件数	900件	560件	800件

イ 発達障害児者及び家族に対する発達支援

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
年間延相談件数	1,000件	1,545件	1,807件

ウ 発達障害児者に対する就労支援

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
年間延相談件数	250 件	252 件	325 件

エ 関係施設及び関係機関に対する普及啓発及び研修

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
年間開催回数 (参加延人数)	70 回 (4,000 名)	111 回 (4,385 名)	129 回 (3,958 名)

(2) 家族支援・支援体制サポート強化事業[㊦]

ア 支援体制サポート強化事業による巡回

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
年間延ケース数	450 件	1,033 件	745 件
年間延訪問数	126 回	167 回	124 回

イ ペアレントメンター・地域サポーターの養成

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
年間開催回数 (参加延べ人数)	6 回 (300 名)	6 回 (182 名)	6 回 (321 名)

ウ ペアレントメンターの活用

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
年間実施回数 (ペアレントメンター延べ人数)	50 回 (145 名)	64 回 (181 名)	44 回 (131 名)

8 伊豆医療福祉センター

基本理念

私たちは、障がいを持つ方々の生活の充実・納得を目指して、チームを組んで医療と療育の総合的支援に取り組みます。

令和2年度目標及び結果

目標

1 地域ニーズの的確な把握と、適切な病床利用

目標：入所者数 36 名

2 入所利用者の満足度の向上

目標：病棟での様々な行事の充実

3 在宅重症心身障害児者の福祉向上

目標：利用者数 生活介護 6 名/日 児童発達支援 4 名/日 短期入所等 5 名/日

4 機能充実に伴う人材の確保・職員の質の向上

目標：職員研修の充実、第三者評価の受審による職員の意識改革

結果

- 令和2年度の入所者数は、最大 35 名であったが、途中 1 名の退所があり、年度末は児童が 11 名、成人が 23 名の計 34 名となった。
- 病棟での行事については、コロナ禍により例年に比べ規模は縮小したが、夏祭やクリスマス会などを実施し、入所利用者に季節感を味わっていただいた。
- 外来患者については、いわゆる発達障害の患者は増加しており、診療枠を増やしているが、新患の予約は 3 か月から 6 か月先でないと入れられないような状況となっている。
- 在宅支援福祉関連サービスでは、生活介護利用者と児童発達支援利用者は、それぞれ 5.4 名/日、3.2 名/日と、ほぼ前年並みであったが、短期入所等は、コロナ禍による入所制限により、3.9 名/日から 2.2 名/日と減少した。
- ひとつひとつの医療・介護行為は、安全を心がけ、丁寧に実施した。安全対策委員会・感染防止委員会等を開催し、防ぐことのできる事故を起こさないよう努めた。
- コロナ禍により、外部研修の機会は減ったが、オンライン研修へ職員を参加させ、職員の医療・療育技術の向上を図った。
- 第三者評価の受審が職員の意識改革に繋がった。

当センターは、社会福祉施設であるとともに、医療法に基づく病院であるので、医療の提供も併せて行っている。

医療の提供については、重症心身障害児（者）への入院診療とともに、外来診療として、脳神経外科、発達行動小児科、小児神経科、整形外科、リハビリテーション科、障害児（者）歯科の専門診療を実施している。

地域への支援の必要性が高まる中、入所・通所事業、相談支援事業、医療の提供を通じて、静岡県東部の障害児（者）の総合的な療育支援の機能を担っている。

(1) 医療型障害児入所施設（一種事業）・障害福祉サービス事業（療養介護）（二種事業）

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
1日平均在所児（者）数	36名	33.9名	33.3名
1日平均外来患者数	96名	88.3名	87.0名

（ 入 所 ）

（ 外 来 ）

- ・定 員 43名（43名）
- ・年間延べ患者数 25,249名（24,266名）
- ・在所児（者）数 34名（35名）
- ・年間診療日数 286日（279日）
- ・年間延べ在所児童（者）数 12,382名（12,220名）
- ・一日平均患者数 88.3名（87.0名）
- ・一日平均在所児童（者）数 33.9名（33.3名）

(2) 障害福祉サービス事業（生活介護）（二種事業）

(3) 障害児通所支援事業（児童発達支援）（二種事業）

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
1日平均利用者数	6名	5.4名	5.8名

- ・定 員 5名（5名）
- ・登録者数 21名（19名）
- ・延べ通所者数 1,299名（1,363名）
- ・一日平均通所者数 5.4名（5.8名）
- ・年間通所日数 238日（235日）

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
1日平均利用者数	4名	3.2名	3.1名

- ・定 員 5名（5名）
- ・登録児童数 10名（11名）
- ・年間延通所児数 690名（682名）
- ・一日平均通所児数 3.2名（3.1名）
- ・年間通園日数 213日（214日）

(4) 障害福祉サービス事業（短期入所）（二種事業）委

(5) 日中一時支援事業（地域生活支援）（公益事業）委

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
1日平均利用児（者）数	5名	2.2名	3.9名

- ・年間延べ利用者数 828名（1,443名）
- ・一日平均利用児（者）数 2.2名（3.9名）
- ・年間実施日数 365日（366日）

※短期入所・日中一時支援の合計

(6) 障害児相談支援事業・特定相談支援事業・（二種事業）委

- ア 特定相談支援事業・障害児相談支援事業
相談支援専門員2名を配置し、利用計画作成のための相談に対応した。

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
計画相談等(モニタリング含む)	400回	289回	315回

イ 静岡県障害児(者)地域療育支援センター事業

登録された障害児(者)を対象とした在宅訪問・外来・施設支援等に対し、当センターの職員である医師・PT・OT・ST・心理士・管理栄養士・看護師・保育士等を派遣し、在宅障害児(者)の療育指導を実施した。

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
在宅支援訪問療育等指導事業	200回	207回	260回
在宅支援外来療育等指導事業	200回	115回	154回
施設支援一般指導事業	35回	16回	37回

ウ 静岡県発達障害者支援センター機能強化事業

自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障害、学習障害等があるいわゆる発達障害児(者)に対し、それぞれのライフステージに応じた生活を支援するため、地域での医療や福祉サービス等の情報提供を行うとともに、学校・保護者を含む関係機関とのケア会議に参加した。

賀茂地区の学校等を9回訪問し、保護者相談を3件実施した。

エ 一般相談支援等

身近な地域での各種福祉サービスの利用などに関する、電話等を含めた様々な相談に応じるとともに、障害児(者)が充実して暮らせる地域づくりを目指し、行政機関や、自立支援協議会との連携を図った。

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
一般相談等	700回	644回	901回
自立支援協議会等参加		70回	100回

(7) その他の事業(なでしこプラン) 無料健康相談

施設の一般公開に合わせて、無料健康相談を実施した。また、幅広い相談に対応できるよう、他施設や外部団体との連携強化を図った

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
年間利用者数	15名	13名	46名

(8) 第三者評価の受審

福祉サービスの第三者評価であるので、当施設が実施している事業のうち、まず、医療の提供に係らない福祉型の事業である「障害福祉サービス事業(生活介護)」について、専門的かつ客観的な評価を受けた。

9 静岡県川奈臨海学園（川奈臨海学園 ※令和3年4月1日より施設名変更）

基本理念

子どもの最善の利益のため、子どもたち一人ひとりが尊重され、心身とも健やかに育成され将来健全な社会の一員として自立できるように支援を行う。

令和2年度目標及び結果

＜児童養護施設＞

目標1 家庭的養護として、推進計画に合わせた新施設整備への取り組み

- (1) 施設の老朽化に伴い、改築計画を進める。静岡県と連携して関係機関との調整を図り、新しい施設の建築を始める。（7月職員公舎の解体、その後建築開始）
- (2) 改正児童福祉法の理念に基づく「都道府県推進計画」にそって、具体的な計画を進め、家庭的養護のための運営を行う。

結果 令和2年度中に新しい施設は完成しなかったが、令和3年4月引き渡しを受け、令和3年5月から新しい施設での生活を始める。「都道府県推進計画」の具体的な計画を進めるべく、まず1ユニット6人での家庭的養育に取り組むよう職員とともに準備を行った。

目標2 基本理念に基づき、児童の生活支援及び自立へ向けての取り組み

- (1) 自立支援計画に基づき、児童一人ひとりに生活支援を行う。新施設移行に定員数の変更となるため、子どもたちの生活をしっかり考え支援する。
- (2) 高校卒業学年児童の自立に向けた支援する。
- (3) 家庭復帰へ向けて家族との連携及び協働について家族再統合のできる家庭の調整を行う。

結果 児童一人ひとりにしっかり向き合い課題を検討し、子どもたちの特性を理解して日々の支援にあたった。年間退所者は、20名中、家庭復帰14名、他施設及び里親への措置変更6名であり、アフターケアも継続している。

目標3 里親支援への取り組み

- (1) 里親の研修、実習を積極的に受け入れる。
- (2) 里親の開拓や資質向上のサポートを行う。

結果 里親事業の推進と里親開拓を行い、里親研修については認定前養育実習を5組（10名）、基礎研修3組（6名）を積極的に受け入れた。新型コロナウイルス感染対策のため里親サロンの開催は出来なかったが、里親との連絡として「感想用紙」を配布し意見交換を行った。啓発活動として里親パンフレットを伊東市内の行政機関や児童館へ配布した。

＜病児保育＞

目標4 病児保育事業の充実を図る

- (1) 伊東市からの委託を受け指定医療機関との連携により病児に対して疾病からの回復を支援する。
- (2) 関係機関との連携を図りより多くの市民へ周知し、利用人数を増やす。

結果 年間の利用数延べ132名であった。新型コロナウイルス感染対策で利用者の減数があった。年間利用者目標延べ数である400人以上とはならなかった。伊東市内保育園への情報提供やSNSの利用により情報発信の場を広げたが、まだ周知され

切れていないこと、利用しやすい病児保育となる努力が必要である。

目標5 子育て短期支援事業の推進

市町の要請を受け、児童を養育することが一時的に困難な家庭に対して緊急一時的に保護、養育を行い、児童及び家庭の福祉の向上を図る。

結果 伊東市からの委託を受けて子育て短期支援事業を年度途中(8月)から開始した。

(1) 児童養護施設運営事業(一種事業)

ア 本体施設

定員 65 名で虐待を受けた児童が増加する中、3才児から高校3年生まで関係機関との連携を図りながら、個々の自立支援計画に基づき支援を行った。高校卒業学年は1名で、措置延長し静岡県内の短大へ進学し、中学卒業児童7名のうち普通科高校へ2名、商業科高校へ2名、単位制高校へ1名、特別支援学校高等部へ1名、職業訓練校へ1名進学した。一日平均48名の子どもたちに対し、職員全体で関わりながらより良い支援を行うよう努めた。

イ 地域小規模児童養護施設

令和元年度まで小規模グループケア棟定員6名を施設敷地内でケアを行ったが、令和2年度地域小規模児童養護施設を伊東市鎌田地区に開設した。専任職員と本体施設職員がシフトを組み、児童との関係を密接にし、ケアの内容を深めた。地域小規模児童養護施設開設に伴い、地域との関係を大切にし、地域の公園清掃には子どもたちとともに積極的に参加した。

・定員	71名	(65名)
・年間入所児童数	10名	(8名)
・年間退所児童数	20名	(14名)
・年間延在所児童数	16,130名	(18,823名)

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
一日平均在所児童数	60名	38.2名	51.4名
小規模グループケア	6名	5.9名	6名

入所理由別人員(主訴) (令和2年4月1日～令和3年3月31日)

入所理由	年間取扱実人員(名)	構成比(%)
疾患	0	0
養護	13	25.5
虐待	38	74.5
計	51	100.0

月別在所児童数（本体と地域小規模児童養護施設合算） (名)

年 月	初日在籍者数	延べ人数	年 月	初日在籍者数	延べ人数
令和2年4月	42	1,320	10月	46	1,426
5月	44	1,364	11月	46	1,380
6月	44	1,292	12月	46	1,454
7月	43	1,333	令和3年1月	44	1,364
8月	43	1,363	2月	44	1,232
9月	45	1,350	3月	44	1,252
			計	531	16,130
			月平均	44.3	1344.1
			一日平均		44.1

(2) 病児保育事業（二種事業）(委)

伊東市から病児保育事業の業務委託を受け、基本理念を「子どもたちの健全な成長と発達を保障しつつ疾病からの回復を援助する」とし、指定医療機関と連携して病児の看護保育を行い伊東市内の子育て世帯の支援を行った。

令和2年度の利用

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
年間利用延べ児童数	400名	132名	348名
月平均児童数	34名	11名	29名

(3) 子育て短期支援事業（二種事業）(委)

保護者の疾病、疲労その他身体上もしくは精神上又は環境上の理由により家庭において児童を養育することが一時的に困難になった場合や経済的理由により一時的に児童を保護することが必要な場合に養育・保護を行う。

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
年間延べ利用児数	16名	8名	
一月当たりの利用実数（実人員）	1名	1名	

(4) その他の事業（なでしこプラン）

ア 保護観察対象等が行う社会貢献活動の受け入れ

保護観察所及び地区保護司会と連携し、保護観察対象者の社会貢献活動の場を当学園が提供し継続的に受け入れと支援を行う計画は立てたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染対策のため行わなかった。

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
年間受け入れ回数	2回	0回	2回
年間受け入れ延べ人数	16名	0名	12名

イ 退所児童の健康診断補助事業

施設退所後、生活困窮のため健康診断を受けていない退園生に対して、伊東市民病院で健康診断の受診及び健康状態のフォローを行う。

令和2年度も、対象となる退園生がいなかったため未実施となった。

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
年間受け入れ延べ人数	2名	0名	0名

10 静岡市心身障害児福祉センターいこいの家

基本理念

児童福祉法に基づく児童発達支援センターとして、発達心配な乳幼児の子育て支援・家庭支援の充実を図り、こどもたちの健やかな育ちと安心・安全な生活の実現に努める。

令和2年度目標及び結果

目標1 通園支援事業の充実

- ・第5期指定管理申請の年となり、これまでの支援内容のまとめをし、今後も充実した発達支援に努める。
- ・個々の発達状態を踏まえた個別支援計画に基づき、こども・保護者の気持ちに寄り添いながら、集団生活を通して遊びとコミュニケーションの力を育て、生活習慣の自立と社会適応を支援していく。

結果

- ・第5期指定管理申請のため、過去4年分の運営内容や児童発達支援センターとしての今後の運営方針をまとめ、指定管理評価委員会と指定管理審査会に臨んだ。令和3年4月1日から令和8年3月31日の5年間の指定管理を受けることとなったが、完全利用料金制から利用料金併用制へ変更となった。
- ・新型コロナウイルス感染防止のため、通園自粛から新年度が始まった。保護者との対面もままならず、行事等も全て保護者不参加で行われた。密を防ぐ、消毒を徹底するといった感染対策の結果、インフルエンザや嘔吐下痢などの発生もなく、こどもたちは例年より元気に通園できた。

目標2 職員の資質向上

- ・専門性の高い園外研修に多く参加し、報告・周知を徹底する。
- ・園内研修（コンプライアンス、保護者対応、摂食対応、進路支援、様々な障害の理解、個別のサービス評価、ケース検討等）の実施。

結果

- ・園外研修は全て中止となり、年度後半にZOOMでの研修にいくつか参加したが、職員への周知は研修報告会ではなく回覧という形になってしまった。
- ・コンプライアンス研修は外部講師を招いて実施したかったが、感染予防の観点から実施を見送った。

目標3 親子教室の充実

- ・静岡市による早期発達支援の「あそびのひろば」「ぱすてるひろば」からの紹介児を随時受け入れ切れ目ない支援をする。
- ・保健センター主催の遊びの教室に職員派遣し連携を深める。
- ・親子教室利用児の療育相談を実施する。

結果

- ・親子教室は静岡市の指示により4～5月は感染予防のため中止となった。その間、親子教室利用児の療育相談を実施した。6月から再開したが、密を防ぐため1グループ7組までとし、前半・後半に分けて実施した。実利用者数は例年と変わらず136名と多かった。

目標4 地域福祉事業の充実

- ・「いこいの家通信」を毎月発行し、事業内容を地域自治体や関係機関に伝えていく。
- ・地域に開かれた施設として見学・研修・実習・ボランティア等の受け入れを拡充していく。

結果

- ・「いこいの家通信」は行事の実施がなかったため、内容が偏りがちだった。しかし「おかあさんの詩」は外部から感動したという連絡を頂くことがあった。
- ・感染予防のため実習生・ボランティアの受け入れを全て中止したため、新卒者の就職希望者がなく、採用活動への影響は大きかった。

(1) 障害児通所支援事業 (二種事業) (指)

ア 児童発達支援通所支援

一日平均在園(通園)児童43名を目標に、就学前の心身障害児に対して集団参加を通して、生活と遊びを充実させ、健やかな成長、発達をしていくように支援し、併せて就園・就学に向けての基礎作りをした。

・入園児数(定員)	50名	(50名)
・年間新入園児童数	17名	(26名)
・年間退園児童数	19名	(17名)
・年間延在園(通園)児童数	9,229名	(9,695名)
・一日平均在園(通園)児童数	38.5名	(40.6名)

疾病別人員

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

病名	年間取扱実人員(名)	構成比(%)
脳性麻痺	3	6.0
自閉症(自閉傾向を含む)	23	46.0
精神遅滞(発達遅滞を含む)	1	2.0
染色体異常(ダウン症他)	11	22.0
その他	12	24.0
計	50	100.0

月別在園児童数(年間通所日数240日)

年月	初日在籍者数	延人数
2年 4月	49	505
5月	49	409
6月	49	916
7月	49	884
8月	49	776
9月	49	874
10月	49	914
11月	50	786
12月	50	780
3年 1月	50	680
2月	50	774
3月	50	931
合計	593	9,229
月平均	49.4	769.0
一日平均		38.5

イ 保育所等訪問支援

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
訪問相談	13 件	54 件	90 件
来所相談	／件	36 件	38 件
電話相談	／件	484 件	424 件

(2) 障害児相談支援事業・特定相談支援事業(二種事業) (指)

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
障害児支援利用計画	170 件	66 件	74 件
特定相談計画	／件	0 件	0 件
モニタリング	／件	109 件	89 件
一般相談	／件	181 件	192 件
電話相談	／件	1,677 件	1,304 件
訪問支援	／件	217 件	186 件
その他	／件	156 件	195 件

(3) その他 地域療育支援事業

ア 親子教室 年間 205 回 (月平均 20.5 回) 登録者数 136 名 (139 名)
参加児延数 目標 1,700 名 実績 1,433 名 (1,628 名)

イ 療育相談の実施 (随時) 目標 65 名 実績 85 名 (62 名)
一般相談 (電話及び来所) 458 名 (273 名)

ウ 地域交流等

地域に開かれた通園施設として、地元をはじめ広く市民やボランティア、学生、主婦の方々との交流を実施した。

- ・いこいの家通信発行 12 回 (12 回) 306 部 (339 部)
- ・夏祭り参加者 0 名 (477 名)
- ・城東保健福祉エリア地域交流まつり参加者 0 名 (422 名)
- ・実習生受入 0 名 (23 名) 延 0 名 (271 名)
- ・体験研修受入 0 名 (71 名) 延 0 名 (109 名)
- ・ボランティア受入 個人 0 名 (20 名) 団体 0 名 (59 名) 延 0 名 (399 名)

※夏祭り～ボランティア受入はコロナウイルス感染症予防のため中止

(地域交流まつりはパネル展のみ実施)

11 小 鹿 苑

基本理念

私たちは、ご利用者一人ひとりの声に耳を傾け、真に、ご利用者の立場に立った支援を実践します。

令和2年度目標及び結果

「積極的に小鹿苑の魅力を発信する」

目標1 ご利用者一人ひとりの立場に立ったサービスの提供に努める。

- ・施設や住み慣れた地域で安心して生活できるように支援する。
- ・医療福祉に関するデータ等のエビデンスに基づき丁寧で質の高いサービスに努める。

結果 施設入所においては、施設の生活がより快適になるように、地域の医療福祉の連携のもと健康管理を徹底し、介護の質の向上に取り組んだ。在宅サービスにおいては、事業間で連携を取り、その人にあった在宅生活の継続や適切な施設入所を支援した。

介護の標準化とともに、ヒヤリ・ハットの検証を行い、安全な質の高い介護を実践することにより、利用者の満足調査の結果も向上した。

目標2 地域の福祉活動を支える。

- ・第三次なでしこプランに基づき、「小鹿苑カフェ」等にて啓蒙周知を行い、「小鹿苑カフェ」を地域住民の居場所として確立する。
- ・共に支えあって生きていく「ソーシャルインクルージョン」に取り組む

結果 新型コロナウイルスの影響により、「小鹿苑カフェ」等の中断を余儀なくされる。そのため、連絡等により、地域の課題やニーズなどの情報を的確に収集した。

目標3 稼働率の向上及び運営の効率化を図る。

- ・事業計画の目標に向けて職員一人ひとりが努力する。
- ・働きやすい環境づくりを行う。

結果 各事業の経営状況について、月次の運営会議において事業間で相互に協力できること等を検討し、一人ひとりが目標への理解を深め、事業目標達成に向けて努力した。前年度と同様に、職員が積極的に有給休暇を消化できるよう、各事業において業務改善、効率化を進め、有休消化率は向上した。

目標4 人材を確保し職員のスキルアップに努める

- ・実習生へきめ細かい指導を行い雇用に繋げる。
- ・就職相談会等に参加し積極的な採用活動を行う。
- ・研修の充実を図り自らが育つ意識を根付かせる。

結果 新型コロナウイルス感染症の影響により、外部研修への出席は少なかったが、通信機器を導入とオンライン体制の整備により、幅広く研修に参加することができた。法人内研修については、感染予防を徹底し、法人内の人的資源を活用した研修を行い、多くの職員が参加した。また、就職相談会等への参加だけでなく、実習生へ技術等のきめ細かい指導及び小鹿苑の魅力を発信し、採用に繋げた。

(1) 特別養護老人ホーム運営事業（一種事業） 80名定員（80名）

経営の健全化のため空床率の削減に努めたが、前年度と同様に退所者数が多く、1日の平均利用延人数は微動に留まった。

令和2年度は、要介護認定者で、常時介護を必要とし、自宅で生活することが困難な方に対し、適切な健康管理のもとに、良質な施設サービスを提供することができた。

また、換気設備及び防災設備の更新を行い、環境整備も行った。

- ・年間新入所者数 34名（36名）
- ・年間退所者数 35名（36名）
- ・入所者平均年齢 86.8歳（86.8歳）
- ・平均介護度 4.13（4.05）
- ・新規入所申込 84件（79件）
- ・入所希望者（年度末現在） 59名（72名）

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
一日平均延利用人数	79名	78.7名	78.0名

疾病別人員（令和2年4月1日～令和3年3月31日現在）

病名	年間実人員（名）	構成比（%）
脳卒中等	27	23.7
認知症等	68	59.6
リウマチ、脊椎症等	1	0.9
その他	18	15.8
計	114	100

(2) 老人短期入所事業（二種事業） 定員20名（20名）

昨年度から引き続き、介護度の高い利用者にも対応した結果、看護体制加算Ⅲ・Ⅳの算定を維持することができた。

また、第三次なでしこプランに基づき、虐待高齢者を3名、延べ186日を緊急に受け入れた。

- ・年間延べ利用者数 3,221名（3,372名）
- ・年間実利用者数 296名（385名）
- ・利用者平均年齢 87.6歳（86.7歳）
- ・平均介護度 要介護3.18（要支援2.0 要介護3.2）

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
一日平均延利用人数	12名	8.8名	9.2名

(3) 老人デイサービスセンター（通所介護事業）（二種事業）定員一日35名（35名）

新型コロナウイルス感染症の影響により営業を休止した期間があったが、地域のケアマネジャーとの連携を密にし、利用者10人の利用回数が増加した。

介護度の高い高齢の利用者が増加し、自主的生活の助長、孤立感の解消、心身機能の維持向上を図った。

- ・年間延べ利用者数 5,712名（5,247名）
- ・年間実利用者数 578名（569名）
- ・年間実施日数 304日（308日）
- ・利用者平均年齢 87.6歳（86.8歳）
- ・平均介護度 要介護2.1（要介護1.9）

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
一日平均延利用人数	22名	18.8名	17.0名

(4) 老人居宅介護等事業（訪問介護事業）（二種事業）

要介護認定者で日常生活に支障がある方がいる家庭に対し、11人のヘルパーを派遣し、日常生活の支援を行った。認知症で独居のサービスご利用希望が増えたことにより、新規利用者は20名（12名）と昨年度より8人の利用者を増やすことができた。

- ・年間延べ利用者数 3,516名（3,051名）
- ・年間実利用者数 449名（371名）
- ・年間活動日数 309日（308日）
- ・利用者平均年齢 83.1歳（81.4歳）
- ・平均介護度 要介護1.75（要介護1.8）

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
一日平均延利用人数	16名	11.4名	9.9名

(5) 地域包括支援センター運営事業（公益事業）委

静岡市からの受託事業として、西豊田、東豊田、東源台小学校区の高齢者及び地域住民からの相談解決のために制度やサービスを紹介し、関係機関等につなぐ。

また、介護保険要支援認定者等の予防プラン作成や支援困難ケースの解決のために、関係機関や自治会、民生委員との連携を図り、地域ケア会議を開催した。

- ・年間延べ相談者数 1,924名（2,341名）
- ・介護予防支援（直営・委託） 3,306件（3,234件）
- ・介護予防ケアマネジメント（直営・委託） 1,755件（1,719件）
- ・年間活動日数 309日（308日）

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
月平均数	380件	421.8件	412.8件

(6) 居宅介護支援事業（公益事業）

5名（4名）のケアマネジャーが稼働し、ケアプランを作成した。前年度より継続して地域包括支援センターから予防ケアプランの受託作成を行う等の連携を図り、その結果、特定事業所加算Ⅱの算定を行うことができた。

また、要介護認定調査については、介護保険の更新期間が3年（2年）に延びた事や新型コロナウイルス感染症の影響により、要介護認定調査が中止となった事で、年間28件（145件）と減少した。

- ・年間ケアプラン給付管理者延べ数 2,209件（1,748件）
- ・ケアプラン新規作成者 100名（73名）
- ・平均介護度 要支援1.43 要介護2.15（要支援1.5 要介護2.1）

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
月平均件数	155名	184.1名	145.7名

(7) 介護予防・日常生活支援総合事業（公益事業）

要支援者・事業対象者で日常生活に支障がある方に対して、日帰りで各種サービスを提供する通所介護相当サービス又はホームヘルパーを派遣し日常生活を支援する訪問介護相当サービスを行った。

（通所介護相当サービス）

- ・年間通所相当延べ利用者数 608名（730名）
- ・年間通所相当実利用者数 110名（129名）
- ・年間通所相当実施日数 304日（308日）

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
月平均実利用者数	10名	9.2名	10.8名

（訪問介護相当サービス）

- ・年間訪問相当延べ利用者数 1,771名（2,009名）
- ・年間訪問相当実利用者数 287名（347名）
- ・年間訪問相当実施日数 309日（308日）

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
月平均実利用者数	30名	23.9名	24.9名

月別在所（利用）者数

（名）

区分	特養		短期		デイサービス		通所相当		ホームヘルパー		訪問相当		地域包括支援センター	
	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
4月	79	2,348	25	234	52	477	11	59	34	294	23	147	69	149
5月	79	2,431	16	179	46	416	10	56	37	301	21	132	78	159
6月	78	2,383	26	349	47	477	10	58	36	276	21	147	94	171
7月	79	2,444	29	380	48	509	10	60	35	291	21	150	71	135
8月	77	2,455	32	359	44	434	12	68	35	315	23	134	68	133
9月	76	2,340	28	282	44	485	9	53	35	269	22	140	79	144
10月	80	2,447	26	348	46	498	9	60	38	278	24	144	84	171
11月	76	2,354	24	270	52	486	9	44	38	277	26	142	66	166
12月	78	2,416	24	274	47	409	6	25	38	277	29	158	82	177
1月	77	2,454	23	179	50	470	7	32	39	268	25	147	85	167
2月	76	2,208	23	195	51	485	8	40	42	310	25	146	88	176
3月	76	2,440	20	172	51	566	9	53	42	360	27	184	90	176
合計	931	28,720	296	3,221	578	5,712	110	608	449	3,516	287	1,771	954	1,924
月平均	77.6	2,393.3	24.7	268.4	48.2	476.0	9.2	50.7	37.4	293.0	23.9	147.6	79.5	160.3
1日平均	78.7		8.8		18.8		2.0		11.4		5.8		6.2	
					20.8				17.2					

(8) 奨学金貸与事業（公益事業）

介護福祉士養成施設で学ぶ1名の外国人に対して奨学金を貸与した。

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
年間貸与延べ人数	1名	1名	-名

12 小鹿なでしこ苑

基本理念

あなたがあなたらしく 私が私らしく
～ユニット環境を生かして、個性豊かな生活を支援します～

令和2年度目標及び結果

目標1 個性豊かな生活支援

結果 コロナ禍で外出支援はできなかったものの、ユニット環境を生かし、できる限り個人の生活リズムに合わせたケア、個人の嗜好に配慮した支援を行った。職員の意識、利用者の満足度も向上してきている。

目標2 経営健全化に向けた取組

結果 目標の一日平均入所者数 94.0 には届かなかった。平均介護度が 4 を上回り、収入増につながったが、入院者数が増加し、実績は昨年度を下回った。節電とおむつ使用量削減に取り組み成果があった。

目標3 人材の獲得・育成

結果 直接人材獲得につながらなかったが、実習生指導は養成校からも信頼を得てきている。苑内の介護マニュアルの改訂を通して、ケア統一とレベル向上を図った。

(1) 特別養護老人ホーム運営事業（一種事業）

定員 96 名 (96 名)

昨年度より入院者数が多く、目標値には届かなかった。重度化が進み平均介護度が上がってきている。

・年間新入所者数	23 名	(23 名)
・年間退所者数	21 名	(23 名)
・一日平均入所者数	93.5 名	(94.0 名)
・入所者平均年齢 (R3.3.31 現在)	84.3 歳	(85.0 歳)
・平均介護度	4.15	(4.00)

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
一日平均入所者数	94 名	93.5 名	94.0 名

(2) 短期入所事業（二種事業）

定員 13 名

実利用者数は年間 3 名で、そのうち 1 名が長期入所になった。

・年間延べ利用者数	717 名	(441 名)
・一日平均利用者数	2.0 名	(1.2 名)
・利用者平均年齢 (R3.3.31 現在)	92.0 歳	(91.0 歳)
・平均介護度	3.79	(3.00)

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
一日平均利用者数	3名	2.0名	1.2名

月別利用者数 (名)

	特 養		短 期	
	月末 入所者数	入所者延人数 ※	実人数	利用者 延人数
令和2年4月	96	2,817	2	38
5月	96	2,890	2	46
6月	95	2,839	2	42
7月	95	2,920	3	68
8月	96	2,936	3	76
9月	94	2,822	3	75
10月	96	2,876	3	77
11月	94	2,729	3	62
12月	95	2,884	3	69
令和3年1月	94	2,901	3	79
2月	93	2,573	2	43
3月	96	2,931	2	42
合計		34,118		717
一日平均		93.5名		2.0名

※介護報酬を算定している人数

(3) 奨学金貸与事業 (公益事業)

介護福祉士養成施設で学ぶ1名の外国人に対して奨学金を貸与した。

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
年間貸与延べ人数	1名	1名	-名

(4) その他事業 (なでしこプラン)

独居高齢者等の居場所づくりと介護予防を目的とした「なでしこカフェ」を月一回開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で、開催することができなかった。

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
年間延べ人数	100名	0名	162名

13 静岡市桜の園

基本理念

「あなたらしさを応援します」

・人権を尊重し、日々有効なサービスを展開します。そして常に生活の豊かさを求めます。

令和2年度目標及び結果

目標1 地域共生社会の実現に向け、積極的な情報発信・取り組みを行い、活力ある施設を目指します。

- ・町内会の活動に積極的に参加し、施設の位置付けを確立し活発な相互交流を目指します。
- ・施設の認知度を高めるため、広報誌だけでなく SNS 等も活用し発信していきます。

結果 地域のイベントや防災訓練は軒並み中止となり、一昨年に初めて園庭開放等した「内牧桜ウォークラリー」も中止となった。広報誌については、昨年2回の発行だったものを3回発行し、家族の安心や協力を得るために施設での感染症への取り組み等紹介した。積極的にホームページの更新に努め、またInstagramも始め少しでも施設生活が家族等に伝わるようにし、認知度が高まるよう努めた。

目標2 サービスの向上を目指します。

- ・多様なニーズを持った利用者に対応できるよう、介護の幅を広げるとともに質も高めていきます。
- ・日々の生活の中で潤いを感じるような環境作りとともにレクリエーション活動を充実させ日常生活において楽しみが得られるようにします。
- ・生活介護の送迎を増やすとともに、短期入所の送迎も行っていきます。

結果 職場内では感染症対策研修として、ゾーニング等を実際に行い実践的な研修を行った。地域や家族と交流する行事が相次いで中止になる中で、施設内の行事を増やし、コーナーを設け行事の写真や作品の掲示を行った。園芸にも力を入れ身近に四季の花を感じるようにし入所利用者のストレス軽減に努めた。

食事については、ご当地メニューやフェアメニュー等増やし変化のある食事提供をするとともに、その写真を事前に掲示し楽しみ感を持てるようにした。

目標3 利用率の向上を図り施設の安定的な運営を目指します。

- ・短期入所等の新規開拓のため市内だけでなく、中部5市2町の行政窓口や主な相談支援事業所を訪問します。
- ・生活介護の利用率や加算等の向上、定着を図っていきます。

結果 関係機関への訪問は行う事はできなかった。コロナ禍の影響を直接受けたのは生活介護と短期入所だったが、生活介護は電話による健康状態や生活の状況の聴き取りといった特例措置を積極的に活用し、また、短期入所に代えて生活介護を利用する場合もあり影響は最小限にとどまった。短期入所は現在でも利用控えがある。

なお、コロナ感染症を通してご家族とのコミュニケーションが増え関係が深まった場合もあった。

障害者総合支援法に基づき、障害者が地域で安心して暮らせる社会の実現を目指し、利用者本位のサービスの提供を基本として利用者との対等な関係を構築する。

サービスの質の向上を図り、利用者の選択に応える。

障害者の個人としての尊厳を重視した福祉サービスの提供を目指す。

(1) 障害者支援施設（一種事業）（定員 80 名）**㊦**

ア 施設入所支援（定員 50 名）、施設入所をともなう生活介護（定員 50 名）

感染予防のための面会・外出制限のある中でストレスの軽減を図り、福祉、医療、リハビリ、栄養等多職種が連携し、身体状況、健康状態の把握と対応を怠らず、標準的なサービスの見直しを行い、本人や家族の意向を汲み取りながら支援できるように心がけた。また、作業療法士・理学療法士による集団・個別リハビリを実施し、身体機能の維持に努めた。

- ・年間入所者数 0 名（8 名）
- ・年間退所者数 1 名（4 名）
- ・年間延べ在所者数 施設入所支援 18,054 名（17,348 名）
生活介護 12,913 名（12,477 名）

一日平均利用人数	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
施設入所支援	48.8 名	49.5 名	47.4 名
生活介護	48.8 名	49.5 名	47.7 名

疾病別人員 (令和2年4月1日 ~ 令和3年3月31日)

病 名	年間実人員 (名)	構成比 (%)
脳血管障害	2	4.0
脳性麻痺	18	36.0
脳外傷（頭部外傷）	5	10.0
脊髄損傷	4	8.0
頸髄損傷	4	8.0
下肢機能障害（上記以外）	8	16.0
特定疾病（難病等）	4	8.0
その他	5	10.0
計	50	100.0

月別在所（利用）者数 (入所支援日数 365 日・入所生活介護日数 261 日) (名)

区 分	入所支援		生活介護		区 分	入所支援		生活介護		
	人数	延べ人数	人数	延べ人数		年 月	人数	延べ人数	人数	延べ人数
2 年	4 月	50	1,490	50	1,094	10 月	50	1,540	50	1,093
	5 月	50	1,550	50	1,050	11 月	50	1,456	50	1,020
	6 月	50	1,500	50	1,100	12 月	50	1,506	50	1,118
	7 月	50	1,550	50	1,150	3 年 1 月	50	1,519	49	1,029
	8 月	50	1,550	50	1,050	2 月	50	1,374	50	982
	9 月	50	1,500	50	1,100	3 月	50	1,519	49	1,127
	合 計						600	18,054	598	12,913
月平均						50.0	1,504.5	49.0	1,076.1	
一日平均							49.5		49.5	

イ 生活介護（通所） 定員 30 名（30 名）

生活介護（通所）では、安全かつ安心して過ごせる場であるために、感染症を持ち込まないよう感染予防に努め、常時介護を必要とする方に身体機能・生活能力の維持、向上のための援助及び創作的活動の機会の提供を行った。

- ・実利用人数 39 名（39 名）
- ・年間延べ利用者数 4,266 名（4,186 名）

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
一日平均利用人数	22 名	17.5 名	17.3 名

定員	年間 新利用者数	年間 退所者数	年間 延べ利用者数	一日平均 利用者数
30 名 (30)	0 名 (2)	0 名 (3)	4,266 名 (4,186)	17.5 名 (17.3)

月別利用者数（年間通所日数 242 日） (名)

年 月	初日 在籍者数	延べ人数	年 月	初日 在籍者数	延べ人数
2 年 4 月	36	357	10 月	38	390
5 月	38	335	11 月	38	350
6 月	38	383	12 月	38	360
7 月	38	319	3 年 1 月	38	338
8 月	38	340	2 月	38	321
9 月	38	358	3 月	38	415
			合 計	454	4,266
			月平均	37.8	355.5
			一日平均		17.5

(2) 日中一時支援事業（公益事業）〔生活介護（通所）空床利用〕^③

日中において一時的な見守りその他の支援を必要とする障害者に対して送迎・入浴・食事のサービスを提供した。

- ・実利用人数 1 名（1 名）
- ・年間延べ利用者数 41 名（36 名）

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
一日平均利用人数	空床利用	0.2 名	0.2 名

(3) 障害福祉サービス事業（短期入所）（二種事業） 定員 5 名（5 名）^③

年間を通じて緊急の要請にも対応し、家族の急な疾病等など地域で暮らす方々のニーズに応じてきた。

担当者会議へもできる限り積極的に出席し、その方の生活像を把握し、他機関との情報共有にも努めた。

- ・実利用人数 28 名（46 名）
- ・年間延べ利用者数 930 名（1,321 名）

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
一日平均利用人数	3.8名	2.6名	3.7名

月別在所（利用）者数（年間通所日数 241日）（名）

区 分		日中一時		短期入所		区 分		日中一時		短期入所	
年 月	人数	人数	人数	延べ人数	年 月	人数	人数	人数	延べ人数		
2年4月	1	3	12	67	10月	1	4	15	73		
5月	1	3	6	37	11月	1	3	16	80		
6月	1	5	16	76	12月	1	4	15	72		
7月	1	3	14	65	3年1月	1	4	16	101		
8月	1	4	13	76	2月	1	3	12	92		
9月	1	4	16	75	3月	1	1	15	116		
合 計						12	41	238	930		
月平均						1.0	3	19.8	77.0		
一日平均							0.2		2.6		

(4) 静岡市桜の園城北館 障害福祉サービス事業（生活介護）（二種事業）㊦

定員 20名 (20名)

安全かつ安心して過ごせる場であるために、感染症を持ち込まないよう感染予防に努め、常時介護を必要とする方に身体機能・生活能力の維持、向上のための援助及び創作的活動の機会の提供を行った。また、人混みを避け少人数での公園への外出等に努めている。

- ・実利用人数 18名 (19名)
- ・年間延べ利用者数 2,970名 (2,916名)

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
一日平均利用人数	14.0名	12.4名	12.1名

定 員	年 間 新利用者数	年 間 退所者数	年 間 延べ利用者数	一日平均 利用者数
20名 (20)	0名 (1)	0名 (1)	2,970名 (2,916)	12.4名 (12.1)

月別利用者数（年間通所日数 241日）（名）

年 月	初日 在籍者数	延べ人数	年 月	初日 在籍者数	延べ人数
2年4月	18	244	10月	18	262
5月	18	240	11月	18	228
6月	18	272	12月	18	234
7月	18	269	3年1月	18	224
8月	18	252	2月	18	221
9月	18	248	3月	18	276
合 計				216	2,970
月平均				18.0	247.5
一日平均					12.4

14 静岡市心身障害者ケアセンター

基本理念

一人ひとりが地域の一員として自立した日常生活を営むことができるよう、利用者が主役となり地域福祉に貢献できる施設を目指します。

令和2年度目標及び結果

目標1 多様化する障害や個人の状況に即した適切な対応ができるように努める。

結果

- (1)個人の状況に適した対応や支援の幅を広げるため、担当者会議等に積極的に参加し情報収集・共有するとともに、各機関との連絡体制の強化に努めた。
 (2)個人のニーズに即した自立訓練のプログラムを作成し、自立訓練終了後の就労や適切な障害福祉サービス事業所等を提案できるように努めた。

移行先 就労継続支援B型 4人
 生活介護 3人
 生活訓練 1人

- (3)利用者の障害の種別等に即した適切な対応ができるよう、職員の研修への積極的な参加を進めた。

職員研修参加回数 目標：35回（延べ参加者数 38人）
 結果：25回（延べ参加者数 99人）
 ※令和元年度：23回（延べ参加者数 63人）

目標2 利用者一人ひとりの自立した地域生活につなげる。

結果

- (1)在宅生活に必要なリハビリ（歩行訓練、筋力維持向上訓練等）を提供し、安心して日常生活を営むことができるように努めた。
 延べ利用者数：自主トレーニング 1,056人(528人)
 ：リハビリ 1,388人
 (2)長い間自宅だけで過ごされてきた利用者に地域で生活する能力向上のための訓練（家事訓練、園芸等）を行い、自立した日常生活を営むことができるように努めた。 延べ利用者数：社会適応訓練 656人

目標3 利用者の意向にできる限り沿ったサービス提供に努める。

結果

- (1)希望する自立訓練の日数を利用できるように努めた。
 (2)訓練、送迎、入浴の見直しを随時行い、満足いただける環境づくりに努めた。
 利用者アンケートのサービス満足度 目標：83%以上 結果：89% (83%)

目標4 自立訓練新規利用者の確保に努める。

結果

- (1)対象となる地域の相談支援事業所と連携し、自立訓練終了後、個人にあった障害福祉サービス事業所等を提案できるように努めた。
 居宅介護支援事業所からの紹介：3人
 (2)空席利用にて日中一時支援を利用されている方について、個別面談、相談等を行いながら他障害福祉サービス事業所の紹介や見学の同伴等を必要に応じて行い、新規自立訓練利用者の受け入れ環境を整備した。
 新規利用者 自立訓練（機能訓練）7人 自立訓練（生活訓練）5人
 ※令和元年度 自立訓練（機能訓練）7人 自立訓練（生活訓練）9人

静岡市心身障害者ケアセンターは、静岡市の指定管理者として自立訓練事業（機能訓練・生活訓練）を実施しており、自立訓練のサービス支給期間が終了した後、継続利用を希望される方については、空席利用として日中一時支援事業を実施した。

指定管理期間の初年度である令和2年度は、相談支援事業所や居宅介護支援事業所など年数回の訪問を実施し、自立訓練の認知度向上を目指した利用につなげた。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅な業務縮小や施設閉館を行った。施設再開後も外出自粛により利用控えから年間通して、延べ件数及び収入が大幅に落ち込んだ。

引き続き利用者の要望にできる限り応えることができるように、更なるサービスの向上と利用者確保に努めた。

併設の障害者生活支援センター城東は、静岡市障害者等相談支援事業として市より委託を受け、委託支援事業及び特定相談・障害児相談支援事業を実施した。

（１）障害福祉サービス事業^①

ア 自立訓練（機能訓練）（二種事業）（定員 20 名）

機能訓練の利用者は、身体機能の維持・向上、生活上の必要な訓練を、静岡済生会療育センター令和から訓練スタッフの派遣を受けて実施した。

区 分	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
一日平均利用者数	8.5名	5.8名	6.5名

月別利用者数（年間開所日数 235 日）

区 分 年 月	機能訓練		区 分 年 月	機能訓練	
	実人員(名)	延人数(名)		実人員(名)	延人数(名)
2年	4月	15	3年	1月	17
	5月	15		2月	17
	6月	17		3月	14
	7月	17	合 計		1,373
	8月	18	月平均		114.4
	9月	17	一日平均		5.8 (6.5)
	10月	18			
	11月	17			
	12月	18			

イ 自立訓練（生活訓練）（二種事業）（定員 10 名）

生活訓練の利用者は、地域生活や環境面での困難さを抱えて生活されている方等、障害特性による配慮の必要な方が利用された。

区 分	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
一日平均利用者数	8.5名	5.6名	6.8名

月別利用者数（年間開所日数 235日）

区 分		生活訓練		区 分		生活訓練	
年 月	実人員(名)	延人数(名)	年 月	実人員(名)	延人数(名)		
2年 4月	19	90	3年 1月	19	71		
5月	17	78	2月	19	98		
6月	20	133	3月	18	124		
7月	18	130	合 計		1,308		
8月	18	114	月平均		109		
9月	19	124	一日平均		5.6 (6.8)		
10月	19	144					
11月	19	118					
12月	19	84					

(2) 日中一時支援事業（公益事業）（空席利用）㊦

27年度から自立訓練の新規利用の確保・拡大に努めてきたため、空席利用である日中一時支援の利用者は減少した。自立訓練終了後、ご利用希望の方を受け入れた。

区 分	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
一日平均利用者数	9.0名	7.1名	9.1名

月別利用者数（年間開所日数 235日）

区 分		日中一時支援		区 分		日中一時支援	
年 月	実人員(名)	延人数(名)	年 月	実人員(名)	延人数(名)		
2年 4月	46	97	3年 1月	43	84		
5月	47	105	2月	43	112		
6月	46	181	3月	43	169		
7月	46	162	合 計		1,649		
8月	47	151	月平均		137.4		
9月	47	167	一日平均		7.1 (9.1)		
10月	46	183					
11月	46	139					
12月	46	99					

(3) 特定相談支援事業・障害児相談支援事業（二種事業）㊧

ア 障害者等相談支援事業

障害者生活支援センター城東は、身体障害を中心に在宅の障害者・家族の相談に関わり、必要な機関との連絡・調整を行い、支援を行った。

(ア)年間相談延べ件数 3,407件（内、ピアカウンセリング143件）（2,622件）
 年間相談延べ人員 808名（内、ピアカウンセリング70名）（723名）

（年間開所日数 243日）※表記変更

区 分	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
一日平均延べ件数	7件	14件	6.9件

(イ)その他の活動 身体障害者生活支援事業 140回 (68回)
 ・社会資源を活用するための支援（外出支援等） 83回 (39回)
 ・社会生活力を高めるための支援（パソコン教室） 57回 (29回)

(ウ) 参加会議	主催した個別支援会議	15回	(8回)
	参加した個別支援会議	13回	(10回)
	連絡調整会議等	23回	(21回)

イ 障害福祉サービス等の利用計画の作成（特定相談・障害児相談支援）

障害者生活支援センター城東は、静岡市の「指定相談支援事業所」として、障害福祉サービスの利用（身体・知的・精神）に関するサービス利用計画書及びモニタリングを作成した。

サービス等利用計画及びモニタリング作成件数（年間開所日数 243日）

区 分	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
一日平均延べ件数	45件	42.4件	37件
年間件数	540件 ※内児童4件	509件 ※内児童4件	445件 ※内児童5件

15 ワーク春日

基本理念

明るく楽しく働くあなたを応援します。

令和2年度目標及び結果（就労継続B型事業所）

目標1 経営の安定を図る

- ・利用者の確保に努め1日平均26名以上の利用を目指す。
- ・利用者の出席率向上のため、職場環境の改善や利用者の体調管理を行う。
- ・障害者支援課、相談支援事業所などに積極的に働きかけを行う。
- ・特別支援学校、他のA型、B型事業所との情報交換を行い利用者の確保を行う。
- ・心の障害や難病のある方についても、病院やグループホームとも連携し、利用者対象者となるかの検討を行う。

結果

利用者の確保に努めるよう相談支援事業所等と連携を取り、10名の方が見学されたが、利用にはつながらず、4名の新規利用者の確保となった。しかし、新型コロナウイルス感染症などの影響により、6名の利用者が退所となり、1日の平均利用者数が23名にとどまった。

目標2 点字事業担当職員の育成と充実を図る

- ・長年、点字印刷事業に従事してきた職員が一昨年に退職したため、点字を担当する職員の育成と技術の向上に向けて、外部の講習会などへ参加、施設内部での勉強会を積極的に行う。
- ・今後の点字担当者の退職も考えられるため、新たな人材の確保に努める。

結果

点字担当職員がパート職員であるため、時間内での点字学習や新型コロナウイルス感染症などの影響により外部の講習会への参加が難しく、人材育成までには繋がらなかった。

目標3 「済生会障がい者就労支援協議会」の当番県としての役割を担う

- ・平成30年度に発足した「済生会障がい者就労支援協議会」の開催当番県として会議の運営及び協議会での検討課題の取り纏めを行う。

結果

「済生会障がい者就労支援協議会」は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。令和3年度に静岡県での開催を予定している。

(1) 就労継続支援事業B型（二種事業）（定員 30 名）

利用者については、送迎の利用者人数を増やす等したが、新型コロナウイルス感染症の感染を恐れて長期にわたり休まれる方や、そのために退所された方などがいたため、1日平均の利用者数が約2名減少した。就労支援については、軽作業の取引先の輸出が滞るなどし、一時期、軽作業の量が減少したが、静岡市で提言する工賃15,000円を下回ることはなかった。

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
一日平均利用人数	26名	23名	24.9名
平均工賃月額	—	15,402円	16,326円

●月別利用者数 (名)

	利用登録者数	新規利用者数	退所者数	開所日数	利用延べ人数	一日平均利用者数
R2年4月	31	1	0	20	413	20.7
5月	31	0	0	18	441	24.5
6月	31	0	1	22	541	24.6
7月	30	0	1	21	476	22.7
8月	29	0	0	19	409	21.5
9月	29	0	0	20	423	21.2
10月	30	1	0	22	528	24.0
11月	31	1	0	19	446	23.4
12月	30	0	1	19	454	23.9
R3年1月	31	1	0	19	441	23.2
2月	31	0	1	18	428	23.8
3月	30	0	2	23	519	22.6
合計	---	4	6	240	5,519	23.0

●障害別利用者数（令和2年4月から令和3年3月） (名)

		男	女	合計	(備考)
身体障害	視覚	0	5	5	知的との重複1名
	聴覚	2	-	2	視覚との重複1名
	肢体不自由	13	3	16	知的との重複1名
	内部	2	-	2	
知的障害		2	4	6	身体との重複1名 精神との重複1名
精神障害		3	0	3	
合計		22	12	34	

(2) 福祉ホーム事業（二種事業）（定員 6 名）

12月より新規利用者が1名増え、新生活に向けての相談には丁寧に対応した。以前より利用されている方にも、安心かつ快適な居住の場を提供することができた。

	令和2年度計画・目標	令和2年度実績	令和元年度実績
一日平均利用人数	4名	4名	3名

16 静岡済生会看護専門学校

基本理念

済生の精神にもとづき、対象となる人間を生命尊厳や個人が尊重されるかけがえのない存在として捉え、それぞれの健康段階にある人に看護が実践できるような専門職業人を目指す。

令和2年度目標及び結果

目標1 看護師としての基礎的能力の育成と、済生の理念を基にした看護が実践できる学生を育成する

結果 学校の魅力の情報発信を工夫し、学生確保に努めた。また、済生の精神を講義・実習の中で常に意識させ、看護師としての基礎的能力の育成の関わりを学年目標・個別性を視野に入れて、積み重ねた。

目標2 看護師国家試験の全員合格を目指す

結果 学年ごとの教育目標と看護師国家試験を視野に入れ、3学年の学習効果を評価しながら、学習方法を工夫した。結果、卒業生34名全員の看護師国家試験の合格結果が得られた。

目標3 講義・演習・実習へと学生自身が学びを継続し、深めるよう、講義内容を工夫する。また、教育目標を達成できるよう臨床と協働する

結果 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、講義・臨地実習が困難な状況があった。しかし、遠隔授業の導入、臨床に最大限近づけた学内実習と臨床の協力を得て、教育目標に掲げた看護に必要な知識・技術・人間性を養った。

目標4 教員の経験に応じた教育研修・臨床研修を行い、教育力の向上及び人材育成を図る

結果 感染対策の制限がある中、WEB研修参加・授業検討を行い教員の教育力の向上に努めた。新任教員においては、人を育てる喜びを実感できるよう組織的な関わりが課題である。

目標5 令和4年度第5次カリキュラム改正（厚生労働省所管）に向け、取り組む

結果 カリキュラム改正の取り組みは、改正趣旨を盛り込み、済生会の強みを活かした教育課程の骨子を作り上げることができた。

(1) 学年別在籍者数（定員 120名）

区分	1年次生	2年次生	3年次生	計
令和2年度実績	40名	34名	35名	109名
令和元年度実績	37名	38名	37名	112名

(2) 看護師国家試験結果

(名・%)

	令和2年度実績			令和元年度実績		
	受験者数	合格者数	合格者率	受験者数	合格者数	合格者率
静岡済生会看護専門学校	34	34	100.0	34	34	100.0
県内看護専門学校(3年課程)	-	-	98.5	-	-	97.9

県内看護専門学校の合格率は、新卒者の合格率である。

令和2年度の全国(3年課程、新卒)の合格率は96.6%

(3) 卒業生の進路

(名)

区 分	令和2年度実績	令和元年度実績
済生会総合病院	28	32
その他県内病院	3	0
県外病院	2	0
進 学	0	2
そ の 他	1	0
計	34	34

(4) 入学試験結果

(名)

区 分		令和3年度	令和2年度
受験者	推薦入試	28	36
	社会人入試	15	12
	一般入試	101	95
	計	144	143
合格者	推薦入試	22	21
	社会人入試	1	2
	一般入試	34	37
	計	57	60
入学者	推薦入試	22	21
	社会人入試	1	2
	一般入試	21	17
	計	44	40

17 静岡済生会訪問看護ステーションおしか

基本理念

障害や疾病を持ち、地域で生活している人々に対して、住み慣れた地域で、安心して「その人らしく心豊かな生活」ができるよう、温かく思いやりの心で質の高い看護を提供します。

令2年度目標及び結果

目標1 利用者の要望に沿い、安全、安心と信頼を得られる質の高い看護を提供する。

結果 部署内研修の年間計画によって年10回定期研修を計画した。コロナ感染拡大防止の観点から5回は通常通り行った。状況によりサテライトとつながりリモート研修に変更し実施した。後半は紙面研修で代替えている。利用者には感染対策についておたよりを配布し安心して在宅で生活できるよう対応することができた。スタッフにはミーティングや月2回安否コールを使用し注意喚起を行った。コロナ禍であり制限されたが臨床指導者研修・認知症研修・コンプライス研修など院外の研修に参加した。

苦情報告、インシデント、アクシデント報告の徹底を促した。結果は年報に掲載した。また、静岡市介護サービス情報公表を行った。

事例検討や日々のカンファレンスで利用者の情報や問題の共有を図った。

目標2 利用者・地域のニーズを知り、保健、医療、介護・福祉サービスとの密接な連携を図る。

結果 診療所の医師や多職種との連絡調整を積極的に行なった。

利用者満足度調査実施調査を行った。満足79%、やや満足20%と好意的な意見が多かった。

広報活動として毎月のおたより、年報の発行を行い訪問看護の活動内容を理解して頂くようにした。

コロナ禍で紙面でのやり取りが増えたためサービス担当者会議(65件/年)、退院前カンファレンス(61件/年)と昨年と比べ半数以下となったが他機関、多職種との連携を行った。

目標3 健全で安定した運営をめざす。

結果 職員の入れ替わりはあったが、訪問延べ件数17,069件とほぼ横ばいとなった。短期間利用者の増加や施設入所、病院入院が増え訪問件数は目標達成率92%に留まった。今年度より非常勤職員が時間給となった。申し送りの廃止を行い非常勤・常勤の時間外が減った。それに加え、今年度より医療保険の機能強化加算3を取得したことにより経常収支は黒字決算となった。

医療依存度の高い方、ターミナルケアなど済生会病院相談室、小鹿苑居宅支援事業所との連携をスムーズに行うように努めた。

目標4 職場環境の充実を図り、人材の確保に努める。

結果 連続休暇、携帯待機明けの有給休暇が取れるよう配慮しほぼ取得できた。今年度より月曜日から金曜日の営業とし土曜日の事業を休みにしたが、看護師による24時間緊急加算は取得し営業時間外も対応している。土曜日の営業を止めたことで代休取得がなくなり、平日に有休取得の増加となった。

年2回及び必要時に個人面接を実施し、職員の就労、生活状況の把握に努めた。

(1) 訪問看護事業実績

令和2年度は、介護保険、医療保険を含め訪問延件数は17,069件であり、令和元年度に比べ51件（介護保険712件減、医療保険655件増、その他6件増）減少した。また、訪問延件数のうち、6,831件（6,636件）は、サテライトみかど台分である。

令和2年度間目標件数 18,500件

令和2年度実績件数

介護保険延べ件数 13,155件 (13,867件)

医療保険 3,854件 (3,199件)

その他(実費訪問) 60件 (54件)

合計 17,069件 (17,120件)

月平均 1,422.4件 (1,426.7件) 1日平均 70.2件 (58.4件)

疾病別 (令和2年4月1日～令和3年3月31日)

病名	人員(名)	構成比(%)
神経系疾患	30	7.5
呼吸器系疾患	17	4.3
精神障害	27	6.8
脳血管系疾患	41	10.3
骨格系及び結合組織疾患	35	8.8
悪性腫瘍	109	27.4
その他	139	34.9
計	398	100.0

月別訪問者数 (年間訪問日数 243日)

年 月	取扱実人員(名)	延件数(件)		
2年	4月	262	1,605	
	5月	251	1,346	
	6月	259	1,593	
	7月	257	1,458	
	8月	249	1,355	
	9月	250	1,458	
	10月	247	1,516	
	11月	242	1,327	
	12月	236	1,437	
	3年	11月	238	1,279
		2月	237	1,238
		3月	233	1,457
計	2,961	17,069		
月平均	246.8	1422.4		
一日平均		70.2		

年齢別性別訪問者数 (令和2年4月1日～令和3年3月31日) (単位：名)

年齢 性別	～ 59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90 ～	合 計
男性	18	6	10	27	29	40	36	30	196
女性	11	4	6	19	19	31	39	73	202

(2) グループホーム等への訪問看護

委託契約したグループホーム1施設に週1回の訪問をし、入居者の日常的な健康管理及びグループホーム職員からの相談への対応、また、必要に応じ医師との連絡調整及び指示書の発行を受け、医療処置等の訪問看護を行った。